

東京外国語大学

国際社会学部の歩き方

2026 年度入学生版

目次

1.	国際社会学部へようこそ!	2
2.	国際社会学部の4年間	4
3.	国際社会学部で社会／世界を学ぶ	10
4.	学生によるゼミ案内	15
5.	学部賞受賞者紹介	21
6.	大学生のためのレポート作成ガイド	22
7.	学びのサポート案内	24
8.	国際社会学部教員一覧	29
9.	よくある質問コーナー	31

『国際社会学部の歩き方』は、東京外国語大学国際社会学部の新入生を主な対象として、授業の履修の仕方や大学での学び方を知るためのガイドブックとして作成しています。

1. 国際社会学部へようこそ！ 学部長メッセージ（千葉敏之）



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。いよいよ東京外国語大学での大学生活がスタートします。期待に胸を膨らませる皆さんも、まる一日をかけての履修ガイダンスを終える頃には、新しい生活、小・中・高までとはまるで違う〈大学生活〉自体に戸惑いを覚えているかもしれません。『履修案内』を読んでも、壇上から諸先生の説明を聞いても、なかなか自分の生活と結びつかない。そんな皆さんにもっと確かな〈道順〉を提供するのが、この小冊子、通称『歩き方』です。『履修案内』にある堅めの説明が、学生・教員の〈生きた声 viva voce〉を助け船に、うまく消化できるよう、噛み砕いて解説されています。

大学を無事卒業するには125単位が必要なことはわかる。講義は1学期15回で2単位、でもドイツ語やアラビア語の授業は1単位。これを毎年着実に積み上げていけば、単位は集まる…。大学での勉強、いや学問は自由なのだから、何を取っても良いはず。でも、学年ごとに絶対に取らなくてはならない必修科目がたくさんある。専攻語の授業はクラスも時間も決まっていて、変えられない。反対に、導入科目や世界教養科目は比較的自由に選択できる。じゃあ、いったい何を選択したら良いだろう？

ここまで考えが進んだら、『歩き方』の出番です。将来何になりたいか、夢ははっきりしている人もそうでない人も、まずは各ページにある本学卒業生・在学生の生の声に耳を傾けてみましょう。そのうえで、「コース別履修モデル」へ。長期留学を考えている人、短期留学をしながら4年間で卒業しようと考えている人、実際に先輩たちが辿った道であるからこそ、リアルです。イメージが固まってきたら、最初のページに立ち返って、ページの順に読み進めてください（『キーワード検索のすすめ』パンフレット）。

全く別のアプローチもありえます。いま何が勉強したいか、必修科目や必要な単位の取得のことは考慮しつつも、いま学びたいことを純粋に学びたい。そんな人は、本学部の先生たちの専門について調べてみましょう（国際社会学部 HP にある「専任教員プロフィール」「学問分野」ファイルを御覧ください）。高校と違い、大学の教員はみな研究者です。研究講義棟には世界を様々な手法で研究する、実に多様な専門家の研究室が犇めいています。扉を開けば（アポは取ってね）、部屋の設えや書棚に並ぶ書籍の背表紙に、研究者の人となりを感じることができましょう。そして、世界を読み解き、未来を提言しうる学問分野がどれだけあるのか、その圧巻の全体像に迫ることが大切です。既製品ではなく、自分で考えてオーダーメイドできる学びの豊かさこそが本学の個性。そのためにはまず、研究者たる教員の専門や人柄をよ〜く知ることが大切です。そのうちの一人が、皆さんの運命を左右する（？）ゼミの指導教員になるのですから（☞「学生によるゼミ案内」）。

東京外国語大学には、他の大学にはない唯一無二の個性があります。本学150年の歴史のなかで、夥しい数の学生と教職員が踏みしめてきた伝統です。それは、外語祭での料理店や語劇、サークル活動や部活動、こうした学生どうしの間柄が親密であること。そして、学生どうしだけでなく、1年次から卒業まで続く教員と学生の距離も、その息遣いが伝わるほどに近いことです。一方で本学は、一匹狼として孤高に、学問、文学、課外活動に没頭する学生が自分らしく過ごせる場でもあります。〈大学 universitas〉が、その誕生いらい、自由な空間であるからです。

楽しい学生生活においても、物事がうまくいかない時はあります。友達にも相談できない辛さを感じたときは、『相談窓口ガイド』パンフレットを見てください。学生どうしでは解決できない問題も、相談員の方々や先生方に相談したら、うまくいくかもしれません。必要な時は立ち止まって、人の助けを借りることも大切です。そこから新しい絆が生まれて、景色が一変することもあるからです。

今年入学された皆さんの多くは、中学時代にコロナ禍を経験された世代でしょう。私たちのTUFUSでも大学在学中にコロナ禍を迎えた学生たちの多くが、複雑な想いを胸に、けれど晴れやかに、実社会へと巣立っていきました。外語祭では世界の食卓が取り囲む熱いライブステージと、プロメテウス・ホールでの語劇の熱演が観衆の心をとらえ、海外留学では情熱を胸に湛えた学生たちが続々と世界各地へ飛び立っています。大学のキャンパスとは本来、生身の人間と人間が行き交う公共空間。上空から見れば、巨大な円から直線が四方に伸びる府中キャンパスの平面図は、船舶に喩えるなら、さながら世界に向けて開かれた国際貿易港のよう。そして研究講義棟は、船を建造・保守する船渠です。数え切れない数の学生たちが、言葉と知性を磨きあいながら、この場所に「青春の記憶」を残してきました。皆さんも、それぞれの夢を胸に、先人たちの声が甞めるこの府中の港から、世界に広がる海原に向かって、自分だけの航跡を印していきましょう。

国際社会学部の見取り図～大学での学びから社会へ、そして世界へ～

所属する業界 企業・組織・職種	国際社会と世界諸地域をつなぐ仕事 国際機関／政府組織／民間企業／マスメディア／研究機関・大学／国連／外務省・大使館／製造／金融保険／アパレル／建築／エネルギー／広告／テレビ局／新聞社／国内外の大学院／芸術アート／IT 情報通信／コンサルティング／国家公務員／地方公務員／教員																																																														
取り組む仕事	開発・技術協力支援／安全保障／政策立案／人材育成・教育支援／通商貿易／文化交流・文化遺産保護／環境保全／サステナビリティ／学術交流／人的交流／組織間連携／外交／製品開発／エネルギー政策／食文化広報／コミュニティ																																																														
身につける能力 状況判断と調整力																																																															
高度な専門性 ゼミ・専門講義	<p>長期留学（協定校・一般大学への長期留学：語学だけでなく、専門を磨き、社会を学ぶ）</p> <p>55名の専門の多様なゼミと指導教員（3つのコース）</p> <table border="1"> <tr> <td>経済学系 経済学 開発経済学 経済思想</td> <td>政治学系 国際政治学 国際法 安全保障研究 政治哲学・原論</td> <td>歴史学系 歴史学・感情史 記憶／歴史認識論 社会経済史学 建築史・美術史</td> <td>地域研究系 地域研究 （13地域＋α） 地理情報システム学</td> <td>ジェンダー・社会学系 国際社会学 レイシズム・スタディーズ グローバルスタディーズ</td> <td>教育学系 比較国際教育学 教育社会学 ★教職科目</td> </tr> </table> <p>専門授業の柱となる42のキーワード</p> <table border="1"> <tr> <td>宗教</td> <td>貧困</td> <td>社会運動</td> <td>歴史</td> <td>思想</td> <td>人種</td> <td>経済</td> </tr> <tr> <td>信頼</td> <td>開発</td> <td>アクティヴィズム</td> <td>国家</td> <td>人権</td> <td>レイシズム</td> <td>資本主義</td> </tr> <tr> <td>信用</td> <td>法</td> <td>民主主義</td> <td>ナショナリズム</td> <td>人道</td> <td>エスニシティ</td> <td>社会主義</td> </tr> <tr> <td>労働</td> <td>制度</td> <td>紛争解決</td> <td>グローバリゼーション</td> <td>権力</td> <td>都市</td> <td>ジェンダー</td> </tr> <tr> <td>産業</td> <td></td> <td>平和構築</td> <td>帝国</td> <td>暴力</td> <td>記憶</td> <td>セクシュアリティ</td> </tr> <tr> <td>貿易</td> <td></td> <td>国際機構</td> <td>植民地</td> <td>環境</td> <td></td> <td>移民</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>地域機構</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>難民</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>教育</td> </tr> </table>	経済学系 経済学 開発経済学 経済思想	政治学系 国際政治学 国際法 安全保障研究 政治哲学・原論	歴史学系 歴史学・感情史 記憶／歴史認識論 社会経済史学 建築史・美術史	地域研究系 地域研究 （13地域＋α） 地理情報システム学	ジェンダー・社会学系 国際社会学 レイシズム・スタディーズ グローバルスタディーズ	教育学系 比較国際教育学 教育社会学 ★教職科目	宗教	貧困	社会運動	歴史	思想	人種	経済	信頼	開発	アクティヴィズム	国家	人権	レイシズム	資本主義	信用	法	民主主義	ナショナリズム	人道	エスニシティ	社会主義	労働	制度	紛争解決	グローバリゼーション	権力	都市	ジェンダー	産業		平和構築	帝国	暴力	記憶	セクシュアリティ	貿易		国際機構	植民地	環境		移民			地域機構				難民							教育
経済学系 経済学 開発経済学 経済思想	政治学系 国際政治学 国際法 安全保障研究 政治哲学・原論	歴史学系 歴史学・感情史 記憶／歴史認識論 社会経済史学 建築史・美術史	地域研究系 地域研究 （13地域＋α） 地理情報システム学	ジェンダー・社会学系 国際社会学 レイシズム・スタディーズ グローバルスタディーズ	教育学系 比較国際教育学 教育社会学 ★教職科目																																																										
宗教	貧困	社会運動	歴史	思想	人種	経済																																																									
信頼	開発	アクティヴィズム	国家	人権	レイシズム	資本主義																																																									
信用	法	民主主義	ナショナリズム	人道	エスニシティ	社会主義																																																									
労働	制度	紛争解決	グローバリゼーション	権力	都市	ジェンダー																																																									
産業		平和構築	帝国	暴力	記憶	セクシュアリティ																																																									
貿易		国際機構	植民地	環境		移民																																																									
		地域機構				難民																																																									
						教育																																																									
確かな現地理解 地域基礎	<p>世界を覆う13の地域</p> <p>世界諸地域についての理解（地域基礎・スタディツアー・ショートビジットなど）</p> <p>1. 北西ヨーロッパ・北アメリカ 2. 中央ヨーロッパ 3. 西南ヨーロッパ 4. イベリア・ラテンアメリカ 5. ロシア 6. 中央アジア 7. 東アジア 8. 東南アジア第1（島嶼部） 9. 東南アジア第2（大陸部） 10. 南アジア 11. 中東 12. アフリカ 13. オセアニア</p>																																																														
現場対話能力 言語と運用法	<p>国際共通語（GLIP 英語科目）と多様性を広げる教養外国語</p> <p>27の専攻言語（土台）＋世界の諸言語</p> <p>1. 英語 2. ドイツ語 3. ポーランド語 4. チェコ語 5. フランス語 6. イタリア語 7. スペイン語 8. ポルトガル語 9. ロシア語 10. ロシア語およびウズベク語 11. モンゴル語 12. 中国語 13. 朝鮮語 14. インドネシア語 15. マレーシア語 16. フィリピン語 17. タイ語 18. ラオス語 19. ベトナム語 20. カンボジア語 21. ビルマ語 22. ウルドゥー語 23. ヒンディー語 24. ベンガル語 25. アラビア語 26. ペルシア語 27. トルコ語</p>																																																														

1. 国際社会学部の4年間

国際社会学部の13の地域／27の専攻言語

皆さんは入学とともに専攻する地域と言語をもちます。自らの地域と言語を大切に、大学での学びを組み立てて下さい。



入学から卒業まで

皆さんの履修する授業は「世界教養プログラム」と「専修プログラム」に分けられます。世界教養プログラムは言語文化学部、国際日本学部と共通のカリキュラムです。専修プログラムは国際社会学部独自の授業で構成されています。ここでは、履修の大まかな流れをつかむための枠組みだけを示しますので、授業の取り方は『履修案内』をよく読んでください。

卒業までには定められた単位を修得する必要がある、これを**卒業所要単位**といいます。3年次への進級のためには2年次の終わりまでに一定の単位を修得する必要がある、これを**進級要件**といいます。

卒業所要単位と進級要件は以下の表の通りです。言語科目の単位は専攻地域によって異なるので、『履修案内』で確認をしてください。専修プログラムの「導入科目」「概論科目」「専門科目」は所属するコースの授業の単位を一定数以上含むことが必要になります。

卒業所要単位の内訳 注：この卒業所要単位の内訳は2019年度以降の入学生に適用されるものです。

		進級要件 単位数	卒業所要 単位数		
世界教養プログラム	言語科目	専攻言語	15 ※	36 以上※	※言語科目の履修の仕方は地域/言語ごとに異なります。『履修案内』や所属する専攻言語が定める「履修の注意」をよく確認し、担当教員の指示にしたがって履修してください
		諸地域言語			
		教養外国語			
		GLIP 英語科目	-		
	地域科目	地域基礎	6	6 以上	※所属する専攻地域が定める「履修の注意」をよく確認し、担当教員の指示に従って履修してください
基礎科目	基礎リテラシー	1	1	基礎科目は1年生のうちに履修してください	
	基礎演習	2	2		
教養科目	教養科目	-	16 以上		
専修プログラム	導入科目	導入科目	8	8 以上	所属したコースから2単位以上
	概論科目	概論科目	-	6 以上	所属したコースから4単位以上
	専門科目	講義科目(専門演習)	-	24 以上	所属したコースから12単位以上
		本ゼミ	-	4	※指導教員の専門演習が本ゼミ
		卒業研究演習	-	4	
卒業研究		-	8		
関連科目		-	0 以上	他学部・他大学の授業は関連科目の単位になります	
卒業所要単位数 合計			125 以上		

4年間の履修の流れ



履修に当たっての注意点

■ 1、2年次の履修計画を立てるときのポイント

1. 時間割を詰め込みすぎない！ (大学の授業は予習・復習・課題がもれなくついてくる)
2. 進級に関わる必修科目は特に注意 (専攻言語、地域基礎、基礎リテ、基礎演習は基本)
3. 専攻言語と地域基礎は担当教員の指示に従い、「履修の注意」※の通りに履修しましょう
4. 導入科目はバランスよく学んでください (希望のコース・ゼミに進めるとは限らない)
5. 教養外国語は2年生から履修がおすすめ (新しい外国語を複数学ぶのはたいへんです)

■ 無事卒業するために忘れないで欲しいポイント

1. 言語科目の卒業所要単位は **36 単位以上** です (語学は1コマ1単位。けっこう多いです)
2. 必修の GLIP 英語/教養外国語は取り方にルールがあります (本当に要注意)
3. 必修の言語以外に一定数の選択必修の語学の単位を修得する必要があります
4. 導入・概論・専門科目は所属コースの科目から一定数の単位を修得する必要があります
5. 自分の入学年度の『履修案内』※にしたがって履修してください (年度によって異なる場合あり)
6. 所要の 125 単位ピッタリで卒業しようとししないでください！ (取りこぼすと挽回不能です)

※『履修案内』、「履修の注意」は大学 HP→学部・大学院/教育
→国際社会学部→学部生活ナビ～履修・授業・相談窓口

コピペもだめよ



Attention!

各授業の成績評価にかかわる「試験」は、授業内の小テスト、レポートや期末試験などさまざまな方法で行われます。そのいずれにおいても、不正行為はしてはいけません。成績評価については各授業ごとにルールがあります。教員の指示をよく聞いて試験に臨みましょう。不正行為が確認された場合、同一学期あるいはその年度に受講した全ての科目の成績が不合格になることもあります。

コースとゼミの選択【2年次 春学期】

2年次の春学期終了時には、皆さんの希望にもとづいてコースとゼミ（注：指導教員が開講する専門演習が「本ゼミ」です。普段は「ゼミ」と呼びます）が決まります。2年生の春学期の早い時点から、コースとゼミを選ぶための説明会や意向調査が始まります。コースは何を専門的に学びたいかによって選択します。選択するコース・ゼミについては1年次から考え始めるようにしましょう。とくに導入科目、教養科目の履修に際しては、2年次以上で専門的に学びたいことを意識して、関連の深い授業を履修するように心がけてください。

国際社会学部の3コース

※それぞれのコースに所属している教員の専門分野はこの冊子の29ページ以降に掲載してあります。

※国際社会学部 HP にある「専任教員プロフィール」「学問分野」ファイルも御覧ください。

■ **地域社会研究コース** 対象とする地域の時間軸（歴史）と空間軸（地図）を柔軟な視点で捉える方法を身につけ、地域に関わりながらそのリアルを学ぶコースです。

■ **現代世界論コース** 哲学、政治学、ジェンダー論、レイシズム・スタディーズなどのオーソドックスかつ最先端の研究に触れながら、現代世界の諸問題を批判的に考察する方法を学ぶコースです。

■ **国際関係コース** 社会科学の方法論を体系的に学び、法学、政治学、経済学、国際協力論などの学問分野を専門的に学修し、国際社会を生き抜く知的技術を身につけるコースです。

国際社会学部の導入科目（2026年度）

1年生はまず、専修プログラムでは導入科目の履修を計画する必要があります。2025年度に開講する各コースの導入科目を以下の表に示しました。授業内容はシラバスで確認をすることができます。

※コースを色分けしてあります（**地域社会研究コース** **現代世界論コース** **国際関係論コース**）。

※時間割や授業形態が変更になる可能性もありますので、シラバスや学務情報システムをこまめにチェックしてください。

春学期・夏学期開講

科目名	授業題目	担当者	学期	曜限	授業形態
地域社会研究入門1	地域社会とSDGs	大石 高典	春学期	水3	対面
歴史社会研究入門1	世界史を開く	福嶋 千穂	春学期	水4	オンライン
政治社会論入門	政治学原論——政治学よみはじめ	大川 正彦	春学期	火4	対面
世界認識論入門	レイシズム・スタディーズ入門	梁 英聖	春学期	月4	対面
世界認識論入門	文化人類学入門	真島 一郎	春学期	火5	対面
社会関係論入門	Introduction to Gender: Cultural Construction of Gender in Comparison	五十嵐 ミュゲ	春学期	水3	対面
社会関係論入門	ジェンダー論入門	竹田 恵子	春学期	月4	対面
社会関係論入門	労働と生存の社会学	岩館 豊	夏学期	集中	対面

法学入門 1	法学入門 1	鈴木 美弥子	春学期	金 1	オンライン
法学入門 1	Introduction to International Law	根岸 陽太	春学期	金 2	オンライン
政治学入門 1	政治分析入門	松永 泰行	春学期	火 1	対面
政治学入門 3	国際政治学入門	谷 一巳	春学期	火 4	対面
政治学入門 3	国際政治経済	富田 晃正	春学期	月 4	対面
経済学入門 1	ミクロ経済学入門	菊地 和也	春学期	火 4	オンライン

秋学期・冬学期開講

科目名	授業題目	担当者	学期	曜限	授業形態
地域社会研究入門 2	地域研究入門	木村 暁	秋学期	水 4	対面
歴史社会研究入門 1	現代史と映像（映画のなかのホロコースト）	篠原 琢	秋学期	水 5	対面
歴史社会研究入門 2	歴史学入門	巽 由樹子	秋学期	水 3	オンライン
政治社会論入門	政治学原論——倫理と環境正義	大川 正彦	秋学期	火 4	対面
世界認識論入門	Cultural Studies	フィゲロア	冬学期	集中	オンライン
法学入門 2	民法総論	鈴木 美弥子	秋学期	金 1	オンライン
政治学入門 2	政治学基礎（政治制度・政治過程）	若松 邦弘	秋学期	月 4	オンライン
政治学入門 3	国際政治学入門	上地 聡子	秋学期	金 4	対面
経済学入門 2	マクロ経済学入門	前田 大輝	秋学期	月 4	オンライン

【シラバス検索の方法】

大学 HP のトップページ→**在学生の方へ**をクリック→下の方にスクロールすると→**シラバス検索**



または下の QR コードから



※シラバス検索では言語科目や教養科目の授業も調べることができます。シラバスを活用して有意義な授業計画を立ててください。

専門授業の柱となる 44 のキーワード

国際社会学部で学べることを 44 のキーワードにまとめてみました。気になるキーワードでシラバスを検索し、国際社会学部でどんな授業が開講されているか、調べてみてください。「国際社会学部『キーワード検索』のすすめ」も参照してください。

宗教 信頼 信用 労働 国家 ナショナリズム グローバリゼーション 帝国 植民地 社会運動
 アクティヴィズム 民主主義 紛争解決 平和構築 産業 貿易 貧困 開発 法 制度 国際機構
 地域機構 人権 人道 権力 暴力 思想 歴史 経済 資本主義 社会主義 環境 ジェンダー
 セクシュアリティ 移民 難民 教育 人種 レイズム エスニシティ 都市 記憶 芸術 建築

コース別履修モデル

では、具体的にどのように授業を履修したらよいのでしょうか。ここでコース別の履修モデルを紹介します。履修計画を立てる参考にしてください。もちろん、興味や希望する進路、また専攻地域や専攻言語によって履修内容は人それぞれです。自分なりの外大生活を組み立ててください。

※モデル内で紹介された授業題目名は 2018 年度から 2025 年度までの授業時間割に基づきます。年度によって、当該授業が開講されない場合や開講学期が異なる場合、題目名が変更される場合もあるので注意しましょう。言語科目と地域基礎科目は専攻地域によって履修方法が異なります。詳細は履修案内等を確認しましょう。教養科目は 1 年次・2 年次にそれぞれ 4~5 コマずつ履修すると良いでしょう。留学は制度によって、在学期間 4 年で卒業できるケースと、そうでないケースがあります。詳細は留学案内を確認しましょう。

地域社会研究 コースの履修モデル Area Studies

1~2 年次：専攻語の運用能力を高めると同時に、専攻地域に応じた「地域基礎」を必ず履修し、地域の歴史・社会を詳しく学びます。導入科目を広く履修し、幅広い土台作りを心掛ける時期でもあります。

3~4 年次：それまでに修得した語学を武器に、地域に関する知識を深めつつ、ゼミを中心に「専門知」に磨きをかけていきます。多くの学生が留学プログラムに参加するなど、「専門知」の学びの場は世界に広がります。

1 年生	2 年生				3 年生				4 年生							
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬				
Model 1 北西ヨーロッパ・北アメリカ地域 X 歴史 ヨーロッパの歴史を深く探求したい！	専攻言語 I (英語 I) ショートビジット リーズ大学 (英)				専攻言語 II (英語 II) 教養外国語 (ドイツ語) ジェンダーから読み直すアメリカ史 (1) アメリカ史入門 1 ● 周縁から考えるグ ジェンダーから考える近現代アイルランド史 ● ローバル・ヒストリー				専攻言語 III (英語 III) 教養外国語 (ドイツ語) 19・20 世紀の西洋/スペイン美術史 ● 感情史の理論と実践 ● ハプスブルク帝国史研究 ● 留学 Iberian Studies ● 西欧現代政治論 ● ユートピアと社会契約 ● 歴史から教訓は学べるか ●				教養外国語 (スペイン語) 歴史映画にみるポーランド近世 ● 近世スペイン美術史 ● ジェンダーと高等教育 ● 感情史とは何か ● ヨーロッパ国際関係史 ●			
	歴史学入門 ● ジェンダー論入門 ● 世界史を開く ●				歴史学入門 ● 歴史資料体論 ● 国際政治学入門 ● 国際政治理論 ●				専門演習 [近代イギリスの政治・社会・文化]				卒論演習 卒論テーマ～戦間期イギリスの政治と社会～			
	基礎リテラシー・基礎演習 教養科目				教養科目								進路 出版社			
Model 2 東アジア地域 X 現代社会 経済大国中国のリアルが知りたい！	専攻言語 I (中国語 I) GLIP 英語				専攻言語 II (中国語 II) GLIP 英語 ショートビジット 北京語言大学 (中)				専攻言語 III (中国語 III) 中台関係論 ● 現代台湾政治 ● 東アジアポピュラー文化の越境移動 ● 現代中国経済論 ●				教養外国語 (朝鮮語) 朝鮮戦争を考える ● 解放期南北朝鮮の政治と社会 ● 国際経済学 1・2 ● 2 ● 東アジアの経済発展と開発経済学 ●			
	現代中国の政治・経済・社会 ● 中国の伝統と現代 ● 中国の輪郭を知る ●				地域社会と経済生活 ● ナショナリズムとイスラーム主義 ● 香港と中国の歴史 ●				国際金融概論 ● 貿易と直接投資 ● 近代日本の思想とアジア ●				卒論演習 卒論テーマ～慰安婦問題と東アジア地域～			
	地域研究入門 ● 地域社会と SDGs ● レイズム・スタディーズ入門 ●				歴史学入門 ● マクロ経済学入門 ● グローバルスタディーズの経済思想史 ●				専門演習 [中国・香港の歴史と社会]				進路 IT 関連			
	基礎リテラシー・基礎演習 教養科目 山形スタディーツアー				教養科目											
Model 3 イベリア・ラテンアメリカ地域 X 女性 途上国の女性の地位向上のために働きたい！	専攻言語 I (スペイン語 I) GLIP 英語				専攻言語 II (スペイン語 II) GLIP 英語				専攻言語 III (スペイン語 III) 伝統とともに今を生きる先住民民族マヤ ● ブラジルの人と社会 ● 国際社会の中のブラジル ● 留学 近現代ベトナムの性と政治 ●				教養外国語 (ポルトガル語) ジェンダーと高等教育 ● カナダの歴史 ● アフリカ人類学 ● 国際法 ● 実務的側面から見た国際機関 ●			
	ラテンアメリカ政治経済入門 ● ブラジルの地域研究入門 ● 美術・建築からみるスペイン史 ●				ジェンダーから読み直すアメリカ史 (1) ● 周縁から考えるグローバル・ヒストリー ● ジェンダー史概論 ●				国際法概論 ● Gender and Globalization ● ジェンダーとキャリア形成の国際比較 ●				卒論演習 卒論テーマ～米墨国境での移民女性への暴力～			
	地域研究入門 ● 地域社会と SDGs ● ジェンダー論入門 ●				現代史と映像 ● 法学 ● フィア・スタディーズ ●				専門演習 [アメリカ地域研究演習]				進路 海外大学院			
	基礎リテラシー・基礎演習 教養科目 国連スタディーツアー				教養科目											

● は地域基礎 (必修)、● は地域社会研究コース、● は現代世界論コース、● は国際関係コースで開講されている授業を指します。丸印のなかの「入」は導入科目、「概」は概論科目、「専」は専門科目を意味します。

8

現代世界論 コースの履修モデル

Contemporary
Global Studies

1-2 年次：専攻語の運用能力を高めると同時に、専攻地域に応じた「地域基礎」を必ず履修し、地域の歴史・社会を詳しく学びます。導入科目を広く履修し、幅広い土台作りを心掛ける時期でもあります。

- 言語能力を高める授業
- 地域への理解を深める授業
- 専門知を究める授業
- 基礎的教養を身に付ける授業

3-4 年次：それまでに修得した語学を武器に、地域に関する知識を深めつつ、ゼミを中心に「専門知」に磨きをかけいきます。多くの学生が留学プログラムに参加するなど、「専門知」の学びの場は世界に広がります。

Model 1
中央ヨーロッパ地域 × 環境
環境先進国ヨーロッパの経験から学びたい！

1 年生				2 年生			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
専攻言語 I (ドイツ語 I) GLIP 英語 ドイツ・ヨーロッパ中世史 ドイツ語圏の文化 考える世界史 歴史学入門 政治学原論-倫理と政治 基礎リテラシー・基礎演習 教養科目				専攻言語 II (ドイツ語 II) GLIP 英語 ドイツ近現代史 中東欧国際関係史 政治学原論-倫理と環境正義 グローバルスタディーズの経済思想史 歴史資料体論 国際政治学入門 教養科目			

Model 2
東南アジア第 1 地域 × ジェンダー
エンタメ産業におけるジェンダー問題を考えたい

1 年生				2 年生			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
専攻言語 I (フィリピン語 I) GLIP 英語 フィリピン研究入門 1 フィリピン研究入門 2 東南アジア研究入門 文化人類学入門 レイシズム・スタディーズ入門 基礎リテラシー・基礎演習 教養科目				専攻言語 II (フィリピン語 II) GLIP 英語 ジェンダー史概論 東南アジア地域研究特論 ジェンダー論入門 ミクロ経済学入門 質的調査法 社会学原論 教養科目			

Model 3
西南ヨーロッパ地域 × 移民・教育
移民の子どもたちを笑顔にしたい！

1 年生				2 年生			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
専攻言語 I (フランス語 I) GLIP 英語 パリ市を通して見るフランス社会 フランス史概説 History of Contemporary France 現代史と映像 政治学原論-倫理と政治 レイシズム・スタディーズ入門 基礎リテラシー・基礎演習 教養科目				専攻言語 II (フランス語 II) GLIP 英語 アフリカ地域研究入門 ナショナリズムとイスラーム主義 文化人類学入門 政治学基礎 ユートピアと社会契約 質的調査法 教養科目			

3 年生				4 年生			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
教養外国語 (フランス語) 現代ヨーロッパにおける戦争の記憶 現代世界論概論 I A 自然と人間の社会史 環境保全論 I・II 環境保護・脱原発のドイツ・ヨーロッパ史 専門演習 [環境保全論演習]				教養外国語 (イタリア語) 感情史の理論と実践 ドキュメンタリー映画論 感情史とは何か 歴史から教訓は学べるか 西欧現代政治論 進路 メーカー 卒論演習 卒論テーマ～ヨーロッパにおける環境意識の変遷～			

3 年生				4 年生			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
専攻言語 III (フィリピン語 III) 島嶼部東南アジア政治経済社会史 東南アジアの物質文化 近現代ベトナムの性と政治 現代世界論概論 I A ケアの倫理と政治理論 日常生活とつながるジェンダー 1・2 専門演習 注：「社会学専門演習」副：「ジェンダー論演習」				教養外国語 (朝鮮語) 医療から見るベトナム近現代史 森崎和江とフェミニズム ジェンダーとキャリア形成の国際比較 ドキュメンタリー映画論 自由論 進路 マスコミ 卒論演習 卒論テーマ～アジアにおける女性とエンタメ～			

3 年生				4 年生			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
専攻言語 III (フランス語 III) 近世フランスにおける民衆の経験を考える <境界>としてのイタリア 私たちのアナキズム研究 「教育問題」と社会学 国際社会学 移民と国家の社会学 感情史とは何か 教養課程プログラム 専門演習 [国際社会学演習]				教養外国語 (アラビア語) アフリカ文化論 レイシズム・スタディーズ 1・2 市民権/国籍の政治社会学 国際教育論 紛争後社会と和解 進路 教育関連 卒論演習 卒論テーマ～移民の子どもとフランス社会～			

● は地域基礎 (必修)、● は地域社会研究コース、● は現代世界論コース、● は国際関係コースで開講されている授業を指します。丸印のなかの「入」は導入科目、「履」は履修科目、「専」は専門科目を意味します。

国際関係 コースの履修モデル

International
Relations

1-2 年次：専攻語の運用能力を高めると同時に、専攻地域に応じた「地域基礎」を必ず履修し、地域の歴史・社会を詳しく学びます。導入科目を広く履修し、幅広い土台作りを心掛ける時期でもあります。

- 言語能力を高める授業
- 地域への理解を深める授業
- 専門知を究める授業
- 基礎的教養を身に付ける授業

3-4 年次：それまでに修得した語学を武器に、地域に関する知識を深めつつ、ゼミを中心に「専門知」に磨きをかけいきます。多くの学生が留学プログラムに参加するなど、「専門知」の学びの場は世界に広がります。

Model 1
オセアニア地域 × 国際法
先住民の権利の問題を SDGs の観点から考えたい！

1 年生				2 年生			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
専攻言語 I (英語 I) GLIP 英語 オセアニア地域基礎 オセアニアの歴史と社会 (1)(2) 法学 民法総論 レイシズム・スタディーズ入門 基礎リテラシー・基礎演習 教養科目				専攻言語 II (英語 II) 諸地域言語 周縁から考えるグローバル・ヒストリー 地域社会と SDGs 国際法概論 ミクロ経済学入門 国際法総論 グローバルスタディーズの経済思想史 Theory and Practice of United Nations 教養科目			

Model 2
南アジア地域 × 国際政治
外交官として日本と外国を繋ぐ架け橋になりたい！

1 年生				2 年生			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
専攻言語 I (ヒンディー語 I) GLIP 英語 南アジア研究入門 1 南アジア研究入門 2 パキスタン研究入門 1 国際政治学入門 世界史を開く 政治学原論-倫理と政治 基礎リテラシー・基礎演習 教養科目				専攻言語 II (ヒンディー語 II) GLIP 英語 パキスタン・アフガニスタン研究入門 ナショナリズムとイスラーム主義 国際政治経済入門 国際社会の中の日本 政治分析入門 国際安全保障論 外交官等国家・地方公務員プログラム 教養科目			

Model 3
東南アジア第 2 地域 × 経済
グローバル・バリューチェーンの課題について考えたい！

1 年生				2 年生			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
専攻言語 I (タイ語 I) GLIP 英語 タイ研究入門 1・2 東南アジア研究入門 ミクロ経済学入門 地域研究入門 マクロ経済学入門 基礎リテラシー・基礎演習 教養科目				専攻言語 II (タイ語 II) GLIP 英語 地域社会と経済生活 現代東南アジア経済論 国際政治経済入門 ジェンダー論入門 貿易と直接投資 計量経済学入門 国際金融概論 教養科目			

3 年生				4 年生			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
教養外国語 (フランス語) 「先住民 (族)」からみる 「先住民」から考える 国際秩序論 国際法 I・II 国際法事例研究 グローバル環境ガバナンス 専門演習 [国際法演習]				教養外国語 (イタリア語) カナダの歴史 実務的側面から見た国際機関 開発経済学 比較福祉政治 現代社会学 進路 海外大学院 卒論演習 卒論テーマ～先住民の権利保護と持続可能な開発～			

3 年生				4 年生			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
専攻言語 III (ヒンディー語 III) アフガニスタン・パキスタン 近現代政治社会学 1・2 国際法概論 日本外交論 歴史認識論 国際法 I・II 専門演習 [国際協調]				教養外国語 (アラビア語) インド・パキスタン分離独立論 1・2 アラブ地域政治事情 紛争解決論 ゲーム理論 ヨーロッパ国際関係史 進路 外務省専門職 卒論演習 卒論テーマ～インド太平洋をめぐる国際政治～			

3 年生				4 年生			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
専攻言語 III (タイ語 III) 教養外国語 (中国語) ラオス経済論 タイ政治経済論 フィア史の探究 開発経済学 国際社会学 1 ビジネス法 ラテン・アメリカの経済発展と開発経済学 専門演習 [国際経済論]				教養外国語 (朝鮮語) 現代中国経済論 1・2 環境保全論 1 国際社会学 2 開発経済学と東南アジア地域研究 進路 政策金融機関 卒論演習 卒論テーマ～アジア経済とバリュー・チェーン～			

● は地域基礎 (必修)、● は地域社会研究コース、● は現代世界論コース、● は国際関係コースで開講されている授業を指します。丸印のなかの「入」は導入科目、「履」は履修科目、「専」は専門科目を意味します。



授業の選択に不安がある時は……
履修相談コーナーへ！ 教員が相談のりです
4 月 7 日 (火) 11:00-12:30
本部管理棟 2 階大会議室

3. 国際社会学部で社会／世界を学ぶ

■スタディツアーなど

・世界教養プログラム「スタディツアー：国連研修プログラム」（冬学期）

通称「国連スタディツアー」。冬学期の集中授業として開講され、国連の諸活動などについて秋学期中に事前学習したのち、ニューヨークの国際連合本部および関連機関での現地研修に参加します。参加希望者多数の場合は選考があります。

・世界教養プログラム「ウズベキスタン スタディツアー」（冬学期）

本学の協定校タシュケント国立東洋学大学との学生交流や、サマルカンドやブハラの世界遺産地区の見学などを通じて、中央アジアの歴史や生活文化、現地社会の諸事情を実地に学べる機会です。

・世界教養プログラム「地域活性化のためのスタディツアー」（夏・冬学期）

通称「山形スタディツアー」。山形県の農山村に滞在し、地域の歴史や文化、現在の産業などの体験学習を行います。地域社会に暮らす住民の方々との対話を通して、日本社会が構造的に抱える問題について学び、地域の持続可能性、地域の課題解決について考え提案する取り組みです。

■インターンシップ

就職活動につながるインターンシップ以外にも、広く社会や仕事を知るためのインターンシップの機会が用意されています。海外でのインターンシップの機会もあるので、積極的に参加してください。

■公務員試験対策授業

国際社会学部では、国家公務員総合職試験、外務省専門職の受験科目区分に対応した授業がそろっています。地方公務員の試験にも対応しています。

■ボランティア活動

ボランティア活動は、VOLAS（ボランティア活動スペース：研究講義棟2階206室）で紹介をしているほか、活動の相談、サポートも行っています。

■英語による授業

英語によって行われる授業は世界教養プログラムのGLIP英語科目のほか、専修プログラムでも多く開講されています。英語による授業の履修は世界中から外語大に学びにきている留学生と交流するチャンスでもあります。

■メディア翻訳

専攻言語によっては、メディアの翻訳を通して現地理解と語学力を高める授業も行われています。翻訳された記事の一部は「日本語で読む世界のメディア」で公開されています。

<http://www.el.tufs.ac.jp/tufsmmedia/>

■留学

ショートビジット、派遣留学、休学留学など多様な留学の機会があります。1年生の夏学期から参加できるプログラムもあります。

学内活動紹介 外語祭実行委員会（杉山芽衣／ロシア語 現代世界論コース）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！

突然ですが、皆さんは「外語祭」をご存知でしょうか？外語祭は毎年11月に5日間開催される外大の学祭です。1年生による専攻地域ごとの料理店や、2年生による専攻言語ごとの語劇など、国際色豊かな企画が行われています。私はこの外語祭を運営する外語祭実行委員会(外実)に所属し、去年は副委員長を務めておりました。外実は200人以上のメンバーで協力し、1年をかけて外語祭の成功のために日々準備に励んでいます。多くの仲間と共に素晴らしい外語祭に深く関わることができるのは、外実の大きな魅力だと思います。



また外語祭は外実だけでなく、語科や学年の垣根を超え、多くの外大生が一丸となって創り上げる学祭です。ぜひ新たに外大生となった皆さんにも、そんな外語祭を心待ちにしてもらえればと思います。皆さんのこれからの外大生活が、楽しく充実したものとなることを心から祈っています。



学外活動紹介（福田理央／カンボジア語 現代世界論コース）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

私は現在、東京大空襲・戦災資料センターで行われている平和学習プログラムに参加しています。東京大空襲を経験した方のお話を直接伺い、特に被害が大きかった地域でフィールドワークなどを行っています。東京大空襲は、広島原爆ドームや沖縄のひめゆりの塔のように出来事のシンボルとなる場所がありません。そのため、出来事については教科書やメディアで知る程度です。東京大空襲について何もわからなかった私ですが、この活動を通して、教育の場における「戦争」の扱われ方にも問題意識が生まれました。私は宮城県出身で災害学習にも触れてきた経験があり、また教職過程を履修していることから、平和学習と災害学習の関連性や応用できる点についても学習していこうと考えています。

皆さんは、これから始まる大学生活でどのように時間を使いますか？専攻言語の学習や部活動・サークル活動、アルバイト、留学など、外大生には何通りもの時間の使い方があります。自由度が高い分、時間の使い方には私自身、かなり悩まされました。そこで、私は日々の学習に加え、興味のあるスタディーツアーに参加したり、やってみたかったアルバイトを始めたりしました。このように、ただひたすらに目の前の課題に取り組むだけではなく、挑戦したい、心惹かれると思うものには積極的に飛び込んでほしいと思います！



江東区にある東京大空襲戦災資料センター

留学の種類

本学の制度	
派遣（交換）留学	<p>本学の協定校へ、学生交流協定に基づいて留学するもの。</p> <p>期間は原則として、3ヶ月以上1年以内。</p> <p>現地学生と共に現地の言葉で専門的な内容を学ぶ。</p> <p>留学先で取得した単位は本学の卒業単位として認められるため、4年で卒業することも可能（単位認定にあたり審査あり）。</p> <p>本学の授業料を納入し、留学先の授業料は免除される。</p> <p>毎年10月に学内での募集、人数枠に限りがあるため、選考あり。</p> <p>自分の専攻言語と異なる地域への留学も可能。</p>
休学しての留学 （休学留学・自由留学）	<p>本学を休学して留学するもの。</p> <p>事前に申請すれば単位認定可能、ただし審査あり。</p> <p>単位認定あり「休学留学」（3年次以降）、単位認定なし「自由留学」</p> <p>自分で探してきた海外の大学・教育機関に留学する（協定校でなくても可）</p> <p>学部留学、語学留学、いずれも可。休学留学の期間は原則、6ヶ月以上1年未満（選択する休学期間中の申請は2回が上限）。自由留学は最長3年。</p> <p>本学の授業料は免除（在籍料などは必要なし）、留学先の授業料を支払う休学をするため、4年間での卒業は不可。多くの場合、5年卒業。</p>
短期留学 （ショートビジットプログラム）	<p>時期：夏学期もしくは冬学期</p> <p>期間：3週間～6週間程度（留学先による）</p> <p>留学先：本学の協定校</p> <p>内容：言語を学ぶもの、専門分野を学ぶもの（英語にて）</p> <p>参加費用（授業料、渡航費、滞在費など）：すべて自己負担</p>
その他の留学 （スタディツアー・インターンシップなど）	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディツアー ・ニューヨーク国連スタディツアー等 ・インターンシップ

※詳しくは「留学案内」、本学のウェブサイトをご確認ください。

<https://www.tufs.ac.jp/student/studyabroad/>

なお、海外でのインターンシップについては、キャリアセンターのサイトもご確認ください。

<https://www.tufs.ac.jp/student/careersupport/>

金銭的な負担を軽減するためには奨学金を獲得することをご検討ください。奨学金には返済不要のもの（給付型）、返済が必要なもの（貸与型）がありますのでご注意ください。また、奨学金の申し込み時期は実際に留学する1年以上前に設定されているものもあります。早めの情報収集を心がけましょう。情報収集に役立つサイトは次の通りです。

本学ウェブサイト「海外への留学に関する奨学金」

https://www.tufs.ac.jp/student/tuition_scholarship/scholarship/nihongakusei.html

日本学生支援機構「留学のための奨学金」

<https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>

海外渡航の際は、海外旅行保険・海外留学保険への加入を義務付けています。大学の制度を利用して留学する場合は、『学研災付帯海外留学保険（「付帯海学」）』への加入が必須です。加入手続きは、それぞれの留学説明会などでご案内しています。

留学体験記・留学相談

みなさんの先輩方がどのような留学をしてきたのかを知りたい方には、留学体験記をご一読することをお勧めします。

- ・トビタ君留学日記
<https://www.tufts.ac.jp/studyabroad/tobita/>
- ・留学体験報告
<https://www.tufts.ac.jp/student/studyabroad/taiken.html>
- ・ショートビジットプログラム体験報告書
https://tobita.tufts.ac.jp/study_abroad_report_sv.aspx

※学内では、毎年10月に、「TUFS Study Abroad Fair」を開催し、留学経験者の体験談を聞く場を設けています。

TUFS STUDY ABROAD FAIR 2025

東京外国語大学 留学フェア2025

留学関係の説明会、留学体験報告会などを開催します!!

開催時間は、**昼休み (11:50 - 12:30)** です。昼食持参OK。

月	火	水	木	金
9/30	10/1	10/2	10/3	10/3
本学留学課主催 Joint Education Program (JET) 開催 北アミ開催	冬学期1-14シフト アボラム奨学金会① 対象：101年度	冬学期1-14シフト アボラム奨学金会② 対象：101年度	冬学期1-14シフト アボラム奨学金会③ 対象：101年度	2024年度留学体験報告会 対象：23年度 留学経験者 23年度 留学経験者 23年度 留学経験者 対象：留学支援共同利用センター
10/6	10/7	10/8	10/9	10/10
ランディエゴ州立大学 留学説明会	留学体験報告会① ＜中国語＞ フロンティア 中央大学 小宮山 同志社大学	留学体験報告会② ＜中国語＞ キョウ 弘明大学 宇野 立教大学	留学体験報告会③ ＜中国語＞ ラニ 立教大学 北山 立教大学	留学体験報告会④ ＜中国語＞ シロガネ 立教大学 宇野 立教大学
留学支援共同利用センター	留学支援共同利用センター	留学支援共同利用センター	留学支援共同利用センター	留学支援共同利用センター
10/14	10/15	10/16	10/17	
留学体験報告会⑤ ＜中国語＞ オホセ 中央大学 ユウキ 中央大学	留学体験報告会⑥ ＜中国語＞ ベイト 立教大学 社会科学 立教大学	留学体験報告会⑦ ＜中国語＞ オホセ 立教大学 オホセ 立教大学	留学体験報告会⑧ ＜中国語＞ オホセ 立教大学 オホセ 立教大学	
留学支援共同利用センター	留学支援共同利用センター	留学支援共同利用センター	留学支援共同利用センター	

留学支援共同利用センターは研究講義棟215-2（BAVライブラリ）

留学支援共同利用センター
研究講義棟215-2（BAVライブラリ）
E-mail: ryugakushien@tufts.ac.jp
Tel: 042-330-5113

留学支援共同利用センター

留学支援共同利用センターでは、個別に留学についての相談を受け付けています。留学について漠然と考え始めた段階から、留学先への申請やビザの申請方法等具体的なものまで、あらゆる相談に応じています。相談は予約制となっています。相談をご希望の方は事前に「留学相談申込書」を、当センターにご提出いただくか、メールでお送りください。



留学支援共同利用センター 研究講義棟 2階 215-2

e-mail: ryugakushien[at]tufts.ac.jp ※[at]を@に変えて送信してください。

tel: 042-330-5113 <https://www.tufts.ac.jp/institutions/facility/ryugakushien.html>

（「留学相談申込書」は上記サイトからダウンロードできます。オンライン留学相談フォームも利用できます。）

国内の大学等との連携

※詳しくはこちら <https://www.tufs.ac.jp/collaboration/national/>

■多摩地区 5 大学単位互換制度

本制度は、多摩地区 5 国立大学法人（東京外国語大学、東京学芸大学、東京農工大学、電気通信大学、一橋大学）間の相互の交流と教育課程の充実を図ることを目的としています。本制度により、受入大学で授業科目を履修し、授与された単位は、本学において修得単位として認定します。

■西東京 3 大学連携

多摩アカデミックコンソーシアム（TAC）は、国際基督教大学（ICU）、国立音楽大学、東京経済大学、津田塾大学、武蔵野美術大学、東京外国語大学の 6 大学で結成する大学協力機構です。TAC に加盟している大学間では、単位互換制度や図書館の相互利用、学生・教職員の交流などを行っています。

■教育交流

東京外国語大学は 20 大学及び 5 機関と包括協定を締結しています。

2024 年度には沖縄大学との間に交流協定および単位互換協定が結ばれ、2025 年度より学生の派遣・受け入れ（「国内留学」）が始まりました。

※対象：第 3 年次以上の学生（3 年次進級予定の者を含む。出願期間は毎年 6 月～9 月頃を予定）

■単位互換制度

本学の学生としての身分を保有したまま、他の大学において指定された授業科目を履修することができます。

Welcome Messages ～国内留学体験記～

国内留学体験記 下地莉香子（東アジア／朝鮮語 地域社会研究コース）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

私は 4 年春学期に沖縄大学へ国内留学をしました。まさか外大に来て国内へ留学するとは思っていませんでしたが、卒論で地元・沖縄にフォーカスしたいと思っていたので私にとってはとても貴重な機会でした。沖縄大学では大体の授業が沖縄からの視点を設定していて、ジャーナリズム論や日韓の歴史など元々学んでいたものにプラスで沖縄から見ると



どうだろうかという風に思考をもう 1 段階深める学びができました。ゼミでのフィールドワークにも参加し、戦争の跡地や「沖縄戦の図」を展示している佐喜眞美術館などをまわりました。実際にその場に足を運んで直接目にすることで新しいことを考え発見したとても有意義な時間でした。外大では日本から世界へと学びを広げることができ、日本国内についても学びを深めることができます。外大では幅広い留学のチャンスが提供されているので、みなさんもいろいろチェックして挑戦してみてください！



4. 学生によるゼミ案内 ～うちのゼミ紹介します！～

国際社会学部では、3年生からゼミを履修します。(注：指導教員が開講する専門演習が「本ゼミ」です。普段は「ゼミ」と呼びます) 教員の指導を受け、ゼミ仲間との議論を経ながら自分の研究を磨き、最後に卒業論文としてまとめることとなります。…といっても、ゼミの具体的なイメージがなかなか湧かない、という学生も多いのではないのでしょうか。そこで、既にゼミを経験した皆さんの先輩の声の一部を、ここに紹介します。ゼミ生の声から、ゼミの雰囲気を感じてみてください。

地域社会研究コース 生駒美樹ゼミ

生駒ゼミには、さまざまな言語や地域を専攻する学生が所属しています。文化人類学ゼミのため、基本的には卒論の執筆にはフィールドワーク調査が必要ですが、その手法や分析に必要な切り口を丁寧に学ぶことができるため、安心して調査に臨むことができます。生駒先生は穏やかでありながら熱心な先生で、学生の意見を尊重しつつ確かなアドバイスをしてくださいませ。先生ご自身のフィールドワークのお話は大変興味深く、貴重な経験を伺うことができます。自分のやりたいことがまだ明確に定まっていなくても、生駒ゼミでの議論を通して自分の新たな一面や興味関心を見つけられるはず。ゼミでは、文献を読み、ゼミ生それぞれの専攻地域や身の回りの生活での事例を共有するため、毎回刺激を受けられること間違いなしです。日々の「あたりまえ」に問いを投げかけ合うことで、新しい見方や発見が得られ、自身の視点が広がる、そんな場所が生駒ゼミです。(押塚舞優)

地域社会研究コース 青木雅浩ゼミ

本ゼミはモンゴル地域がメインのゼミですが、青木先生はモンゴルとロシアの関係史を専門とされており、ロシア地域専攻の学生の参加も可能です。また研究対象の時代や研究方法などは個々の関心に合わせて決めることができます。ゼミの形式ですが、3年次には論文を書くということはどういうことなのかについて講義を受け、卒論のテーマ決めという目標に向かって自分のやりたい研究方法について、そして先行研究を読んだうえでどんなテーマで研究するのかについて発表を行います。4年次には卒論執筆に向けた情報収集をひたすら行い、秋学期にこれまでの調査を踏まえて卒論の主張を組み立て完成させていきます。本ゼミでは指導を受動的に受け続けるのではなく、ゼミ生が問いについてよく考えることが必要です。また、卒論を書くうえで大切な論理性についてもゼミを通して学ぶことができます。これまでの学生生活の集大成として卒論に力を注ぎたい方におススメのゼミです。(次田美波)

地域社会研究コース 青山弘之ゼミ

地域研究の意義、それは「劣化する智への最後の牙城」(先生の言葉をお借りして)。遠い中東の情報も日本にやってくるようになった現代社会。「内戦」「民主化」「イスラーム」といった便利な言葉によって中東の事実が歪められたり隠れたりしていませんか？このゼミでは、批判的な目も持ちながら、様々なツールを使って、中東で本当に起こっている事実を分析します。ここで使えるのが、現地の言語、文化への理解、留学や交流を通して得た人々の考え方、「肌感」です。青山ゼミでは、3年生で「テロとの戦い」や「膠着するシリア」など、先生の専門と関連した分野の本に関して議論します。4年生になると各々自分の関心あるテーマ(中東に関わっていればOK)に合わせた本を持ち寄り、議論します。とここまで書いてきましたが、難しい話ではありません。あなたの中東への好奇心を入りに、中東の世界へ没入し、私たちとともにその魅力に浸ってみませんか！?(大屋千寛)

地域社会研究コース 大石高典ゼミ

“おいしい”(OISHI)ゼミの一番の特徴は、地域・言語に縛られず、自由に研究テーマを設定できることにあります。自分の専攻地域に限らず、今の自分にとって最も関心のあるもの(農業、民族、料理、音楽、ダンスなど)をテーマに研究を進めることができます。大石ゼミでは、「フィールドワーク」を主な手法としていますが、そのフィールドは遠く離れた海外に限りません。自分のバイト先や所属しているサークル、通い慣れている場所など、普段の生活圏がフィールドとなることもあります。「日常をフィールドワークする」という視点の土台を作るために、3年春学期にはフィールドワークに関連した書籍の輪読を行います。「ゼミ」と聞くとなんだか堅苦しく感じますが、大石ゼミには常にアットホームな雰囲気が漂っており、研究に息詰まった時には、いつでもゼミ友や大石先生に相談できる環境が整っています。のびのびした環境で、自分のやりたいことにとことん向きあってみませんか。(小森まな)

地域社会研究コース 菊池陽子ゼミ

菊池ゼミには、専攻地域を問わず東南アジアに関心の高い学生が所属しています。菊池先生はラオスの近現代史を専門とされており、授業ではラオスの事例を中心に、多角的に東南アジアについて理解を深めることができ、菊池先生のラオス愛を感じられます。ゼミの授業は、主に文献や資料の輪読を行います。2025年度の春はジェームズ・C・スコットの『ゾミア-脱国家の世界史-』を、秋はカンボジアの『ナガラワッタ』を輪読しました。学生の研究内容も多様で、時代や国など興味に応じて自由に研究することができるので、講読する文献も学生の関心に合わせて幅広いテーマから選べます。ゼミ生それぞれの専攻地域の事例も比較しつつ少人数で意見を出し合える温かい空気感です。また、輪読の際のレジュメ作りやレポート課題・毎回のコメントをこなすことで、難解な文献を要約するスキルや自分の意見を述べる力が自然に身につきます。東南アジア専攻でなくても楽しく学べるゼミなのでおすすめです！(T.K. K.T.)

地域社会研究コース 木村暁ゼミ

「地域とは何か」という問いから、このゼミでの学びは始まります。木村先生のご専門は中央アジア地域研究および中央アジア近現代史ですが、「中央アジア」は歴史的に自明な領域ではなく、個々人の言説による構築物といえます。地域とは何か、そしてそこで諸アクターはどのように生きたか、あるいは活動したのかを明らかにするために、3年次には文献講読、論文批評、研究計画の発表を柱とした演習を、4年次には卒業論文執筆の進捗報告を中心とした論文指導をおこないます。やるべきことは単純ですが、それらを丁寧に、そして着実に進めることで、学術的、社会的意義を有する卒業論文を執筆できるようになります。単に中央アジアやその周辺領域に関する事物を究めるだけでなく、地域というオブジェクトへの洞察を深めたい学生を、木村ゼミは歓迎します。(渡邊琉可)

地域社会研究コース 久米順子ゼミ

久米ゼミは「美術史研究に精力的に取り組みたい人」または「自分が本当に興味を持つテーマについてのびのびと卒論を書きたい人」におすすめます！現ゼミ生の前者と後者の比率は3:7という肌感です。先生は、西洋美術史全般や建築・文化・音楽などに造詣が深くいっしょり、美術史に興味がある方には最適な研究環境です。ゼミでは1年を通して1人約4回、個人の興味関心について自由にプレゼンをします。あやふやな興味を言葉にして整理する絶好の機会です。それをしっかり受け止め新しい視点や情報を提供してくださる先生と、等身大で質問し合える専攻言語・地域が様々なゼミ生は、探求心を育てる素晴らしい土壌になってくれます。このゼミには強制の課題や研究テーマの縛りが無いからこそ、日々自発的に自分の興味関心を模索し文献にあたるのがとても重要です。そんなゼミ生を、先生は卒論の執筆からその心理的な面まで、きめ細かくサポートして下さいます。(陰山真依)

地域社会研究コース 倉田明子ゼミ

倉田明子先生のゼミでは、主に「歴史」を軸に中国・香港地域を考えます。ただ、対象地域は上記に限定されず、シンガポールやマレーシア等、幅広く取り扱われます。ゼミ形式に関して、三年次では事前に論文を読んでレジュメを作成し、授業で疑問や自分の考えを話し合います。私は「容閔一米中間で揺らぎ上昇する境界者」「中華料理のモダニティ」という論文が印象に残っています。歴史上の人物の生き方や当時に残された文献から、現在の問題を考える上での多角的な視点と知識を得られ、卒業論文を書く際に大いに役立ちました。四年次は卒論執筆が中心で、先生と相談しながら方針を決めてきます。卒論のテーマは自由。それぞれの興味関心に合わせて、卒業論文に取り組むことができます。学生個人の関心と主体性が尊重された中で学びを深めることができるゼミだと思います。「中国」「香港」「歴史」(+関連した地域やテーマ)に関心がある方、ぜひ倉田ゼミへお越しください。(相馬佳菜子)

地域社会研究コース 鈴木義一ゼミ

鈴木ゼミはロシアを中心とした旧ソ連圏諸国を対象とした地域研究を学ぶゼミです。政治・経済・社会・外交といった社会科学の諸分野からテーマを選ぶことができ、対象となる時代も近代から現代と幅広いのが特徴です。実際に現在所属している学生のテーマもアルメニア現代政治や帝政ロシアの民族政策、ソ連外交史など多岐にわたっています。3年春学期のゼミでは当初示された課題文献を読んで学生がそれについて発表を行い、それを基にした議論を行います。春学期終盤から秋学期は卒論を見越して課題文献の選択が各自のテーマにあわせて自由となり、議論もそれぞれの専門にあわせて深まります。そして秋学期末には卒論の予行練習として16,000字程度のゼミ論文を執筆し、こうした準備を踏えて4年次には卒論執筆に取り組みます。近現代の旧ソ連圏を対象にした地域研究を行いたい学生を鈴木ゼミは歓迎しています。(小副川将剛)

地域社会研究コース 芹生尚子ゼミ

本ゼミでは歴史学的手法を用いて自身の関心領域を広げ掘り下げていきます。指導教員である芹生先生はフランス近世史をご専門とされていますが他の地域、他の時代を扱うことも可能です。授業の流れとしてはまず学期始めに自分の関心分野について扱った文献のリストを各々作ります。分野があまり定まっていない場合は先生と相談しながら仮テーマを設定します。リストができたらその中から読む文献を選びレジュメを作成し発表を行います。発表が終わるとまずは生徒同士で質疑応答を行い、その後先生からの講評をいただき関連する記事や動画を紹介していただきます。分野選択も発表も個人の裁量次第ですが先生もゼミ生も真摯に自分に付き合ってくれるゼミだと思います。フランスの歴史に興味がある方、フランス語で卒業研究をしたいと考えている方、テーマが明確でなくとも歴史学をやりたい方、ぜひ一度ゼミの雰囲気を見に来てください！(K.K.)

地域社会研究コース 左右田直規ゼミ

左右田ゼミは主に島嶼部東南アジア政治社会史がメインテーマとなっていますが、最終的にどの分野に焦点を当てるのかは各自の興味に委ねられており、ジェンダーや伝統文化、教育、宗教など、ゼミ生の関心は幅広いです。3年次前半では共通の文献を読み、「社会のあらゆる物事は時の流れの中で作られ、なくなり、変化する」という視点を養います。3年次後半からは各自の関心分野に関する文献を読み進め卒論執筆に繋げていきます。先生からはいつも親身なアドバイスを頂け、さらに基本的には少人数なゼミなので、ゼミ生同士でも普段から刺激し合える環境に身を置けます。私はこのゼミに入って、はじめて学問や興味を追求することの楽しみを実感できました。時には学業に追われたり、自分の未熟さに悩むこともあるかもしれませんが、やりがいを必ず感じられるゼミだと思います。東南アジアが好き、卒論を頑張りたい、そんな方におススメです！(津田詩雨)

地域社会研究コース 巽由樹子ゼミ 「一次史料をもとに、自分ならではの解釈や問いを立てる」。巽先生のこの言葉のもと、本ゼミではロシア史やメディア史を中心とした多様な研究テーマを掘り下げることができます。3年次では「史料とは何か？」という問いを入り口に、ソ連期の雑誌や新聞などを一次史料とした実践演習を行います。ゼミ生は自分で選択した史料の分析、考察を発表し、他のゼミ生や巽先生との議論を通じて理解を深めることができます。このような演習を通じて、自分の興味関心を発見し、卒論テーマを見定めていきます。卒論執筆時は、文字通りマンツーマンで巽先生と繰り返し面談を行い、先行研究集めから章立て、原稿執筆を進めます。柔和な笑顔が素敵な巽先生の周りには、語科を超えて学生が集まる傾向があるようで、温かく、穏やかな雰囲気の良いゼミです。アットホームな巽先生とゼミ生に囲まれて、「自分らしい問い」に向き合いたい方はぜひご検討ください！（恩田はな）

地域社会研究コース 千葉敏之ゼミ

「中世ヨーロッパ」という言葉に、ほんの少しでも心が動くなら。理由がはっきりしていなくても構いません。「面白そう」「もう少し知りたい」--その直感がある方は、一度千葉ゼミの門を叩くことをお勧めします。知識とユーモアに溢れた千葉先生と、あなたのその知的探究心が、運命の研究テーマへと導いてくれることでしょう。中世ヨーロッパ研究の魅力や奥深さは、ここで改めて語るまでもありません（本当はとても語りたいたいです）が、私が強調したいのは、千葉ゼミで学間に真正面から向き合った学部・大学院の4年間で、社会人になった今も確かな糧になっているということです。同じ関心をもつゼミ生との毎週の濃密な議論、膨大な欧語文献の読解、そして集大成として書き上げた長大な卒業論文。その一つひとつが、揺るぎない自信として今も私を支えてくれています。ゼミ合宿や食事会といったイベントを通じて築かれた人間関係も含め、千葉ゼミで過ごした時間は、私の人生におけるかけがえのない宝物です。学生生活の後半に、自分の関心と誠実に向き合い、知を追究する喜びを心から味わいたい方に、千葉ゼミの門は開かれています。きっとあなたも、将来振り返ったときに「ここを選んでよかった」と心から思える経験を手にするはずですよ（2023年度卒、田邊涼）。

地域社会研究コース 登利谷正人ゼミ

登利谷ゼミではパキスタンやアフガニスタンを始めとした南アジアについて、歴史、政治、文化など幅広いテーマを学生自身の興味関心のもと選択し、理解を深めることができます。ゼミ生はウルドゥー語専攻の学生が多いですが、ペルシア語やヒンディー語など専攻に関わらず南アジアに関心のある学生が集まっています。授業では南アジアに関連した論文や書籍を輪読し、ゼミ生で出し合った論点をもとにディスカッションを行います。取り上げる文献はゼミ生の関心によって選ぶため、自分の研究テーマについて知見を広げることが可能です。また三年春学期の段階で卒論構想報告を行うなど早い段階から卒論テーマについて考えることができるため、長い時間をかけてじっくりと卒業研究に取り組むことができます。先生もテーマ選定や研究手法について親身になって相談に乗ってくださるため、充実したゼミとなっています。（神山登輝）

地域社会研究コース 藤井豪ゼミ

藤井ゼミでは主に朝鮮近現代史を通して、フェミニズムや民主主義について学んでいます。これらについて学ぶことは、社会で不可視化されてきた人々の生と抵抗の声を聞くことでもあり、自分の思考の背景にある規範や固定観念を打ち破るきっかけにもなり得ます。今までの「当たり前」を疑うことで、見えていなかった世界が広がり、自身のあり方にも向き合うことができると思います。日常のちょっとした違和感を見逃さず、細分化しながら一緒に考えていきましょう。また、ゼミは学生の関心に沿った様々な文献を毎週読み、議論する方式で行われます。外部からゲスト講師をお招きすることもあり、人との繋がりと対話を大切にしています。ゼミはアットホームで自由な雰囲気、先生やゼミの同期、先輩後輩関係なく話せる賑やかなゼミです！ぜひ藤井ゼミで学んでみませんか？（加賀田聡子）

地域社会研究コース 宮田敏之ゼミ

ある地域にまつわる「モノ」や「コト」に関する分析をもとに現地の経済、政治や社会を紐解いていく。こうした研究手法が宮田ゼミの大きな特徴です。ですから、宮田ゼミでは、学生自身の中にある「好き」や「気になる」を研究の出発点にすることができます。多様な文化や社会が混在する東南アジア地域を扱うゼミらしく、ゼミ生一人一人の興味関心もバラエティに富んでおり、コメ、自動車、ダム、乳製品、縫製品など、その切り口は多種多様です。異なるテーマに挑戦するゼミ生が互いに学び合い、高め合える環境があります。しかも、指導教員の宮田先生は、普段のゼミの授業でも、卒業論文の指導の際も、研究の方向性のヒントとなる有意義なアドバイスを数多くくださいます。ひとつの「モノ」や「コト」を多面的な視点から捉え直した上で、自分なりに問いを立て、その答えを探るといった営みを大事にしています。こうした営みを通して、地域に根ざす視点や社会を俯瞰する力を養うチャンスがあると感じています。東南アジア地域のように温かく活気ある雰囲気の宮田ゼミで、一緒に学びましょう！（田澤日緒里）

地域社会研究コース 山内由里子

「文化人類学・先住民研究・オセアニア地域専攻研究」を扱うゼミです。授業では『想像の共同体』など文化人類学に関する文献の講読を通じて、近代西洋的な価値観を見つめ直します。今まで疑うこともなかった自分や社会の「当たり前」を問い直すこともしばしば。アットホームで発言しやすい雰囲気の中、安心して意見を出し合えるのもこのゼミの魅力です。また、授業と並行して関心のある文献を自ら探し、読み進めながら卒業論文のテーマを考えていきます。ゼミ生の研究地域やテーマは様々で、それぞれの関心を尊重してもらえる環境です。定期的に行われる山内先生との個人面談や、先輩の卒業論文の進捗を聞く機会を通して卒業論文執筆に向けた具体的なイメージを持つことができます。自分で考え、仲間とともに学びを深めていきたい方におすすめです！（瀬川奏来美）

現代世界論コース 上原こずえゼミ

専攻言語や地域の垣根を越えて、学生一人ひとりが難民や観光、病や社会運動など関心を寄せるテーマを設定し、共に／友に学ぶのが、上原ゼミの特徴です。パソコンとばかりにらめっこするのではなく、ゼミ生や先生を誘って実際に現場に行き、学外の方からお話を聞くことで、大学外の空間でも学びを深めていきます！ゼミでは学生が主体となり、テーマに関して報告・議論をします。3年次には沖縄の人びとが置かれた戦後の歴史について輪読することで、「歴史」や「開発」といった、私たちがこれまで見聞きし身につけてきたことばを反芻します。4年次には各人のテーマを他のメンバーと話し合い、個人の課題を皆の課題として受け止め、卒業論文を磨き上げます。なによりも、和気あいあいとした雰囲気の中、皆で学んでいくのが最大の魅力です。あなたの関心は私の関心！ぜひ、学びを共にしませんか？（水上有紀）

現代世界論コース 小野寺拓也ゼミ

「上限」については柔軟に対応する－4年最初のゼミでのこの言葉通り、ゼミ生の意欲や積極性に応じて小野寺先生は親身に指導していただきます。図書館にない貴重な文献を惜しみなく何冊も貸して下さったり、日々の課題や卒論に関するアドバイスをたくさん下さったり…また、就活などと十分に両立できるよう、このゼミでは一足早く3年生で卒論準備の小論文を執筆します。これは他のゼミではあまり見ない取り組みだと思えますが、問いの立て方や論文の書き方などを早い段階で学ぶことで、落ち着いて卒論に取り掛かることができます。欧語文献と格闘したり先生のコメントを必死でメモして卒論の内容に頭を悩ませたりする中で、確実に力がつくはずですよ。「大学生活で思う存分学び切った！」という経験は一生の財産になると思います。ドイツ近代史についての様々な問題関心を持ったゼミ生と切磋琢磨しながら、小野寺ゼミで充実した2年間を送りませんか？（大熊葉月）

現代世界論コース 田邊佳美ゼミ

国際社会学とは、身近な疑問や違和感を出発点として、社会の仕組みや国境を越える関係などについて考える学問です。そのような問題関心について、ジェンダー、移民、労働、交差性など幅広い視点からカバーしているのが田邊先生のゼミです。本ゼミでは、文献講読や研究報告、意見交換を通じて現代社会を様々な角度から考えることができます。ゼミでは、問いの立て方や論文の構成といった研究の基礎から丁寧な指導があり、学問的な思考方法を段階的に身につけることができます。ディスカッションでも安心して発言でき、多様な研究テーマを設定する学生同士の意見交換を通じて理解を深めながら、田邊先生の専門的な助言によって素朴な疑問や関心が社会的な研究課題へと発展していきます。他のゼミ生の研究から学ぶことも多く、異なるテーマ同士が思いがけない形でつながる瞬間に、社会学の醍醐味を感じます。あなたも田邊先生のゼミで一緒に学びを深めてみませんか？（野田美四季）

現代世界論コース 中山智香子ゼミ

当ゼミではみなさんが抱いている問題意識をきっかけに各自の研究を進めています。その結果として、本ゼミの看板である経済・社会思想史の研究や、学際的なグローバルスタディーズ等の分野に取り組むことが多いようです。本とコーヒーの薫る研究室は熱意あるみなさんに開かれておりますので、ゼミ生はそこで鋭いコメントを交わし合い、これまでの語科以上の戦友となって研究に取り組むことになるでしょう。とはいえ、当ゼミで要求されることのいずれも、片手間にこなすことは不可能です。先生は常に10段階の10を要求されます。3年次の春に協働で小論文を執筆、秋には個人で小論文を執筆、4年次には夏の中間報告会を挟みながら完成度の高い卒論を目指します。その過程を通してみなさんは、各々が持つ社会への疑問を理解するのみならず、卒論を書ききった先にある新たな意味－世界－を見つけることができるでしょう。（H.K.）

現代世界論コース 梁英聖ゼミ

レイシズムと聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。梁ゼミでは、レイシズムを引き起こす権力関係を分析します。よく思い浮かべられる人種差別という意味のレイシズムだけでなく、ジェノサイドや移民排斥、フェミニズム、セクシュアルマイノリティへの差別など、幅広い社会問題と関連させながら、レイシズムを引き起こす権力関係を批判・分析する力を身につけていきます。ゼミでは古典を精読しながら、疑問に感じる点や議論したい点をゼミ全体で共有します。2025年度秋学期にはウォーラステインとバリバールの『人種・国民・階級』を読み、先生とゼミ生で議論を重ねました。古典は一見難しいものも多く、一筋縄ではいかないところもありますが、梁ゼミでの時間は一番「思考」をし、それぞれの関心から本気でレイシズムについて考え、向き合える場だと思っています。「なぜ差別が起こってしまうのか」今の社会に少しでも疑問を持ったことがある人は、ぜひ梁ゼミで学んでみませんか。（川口実優）

国際関係論コース 片岡真輝ゼミ

片岡ゼミでは、記憶が集団によって形成されるメカニズムやその社会的影響を研究する記憶論を学びながら、その考えを国際関係学や社会学などといった幅広い領域の事象に応用して自分の興味や関心に合わせた研究ができるゼミです。そのため、様々な語科の学生が所属しています。授業は、事前に設定されたテーマに関するディスカッションやプレゼンテーションが中心となって行われます。リラックスした雰囲気のゼミであり、多様な語科の学生同士の仲も良いため、それぞれの専攻地域の目線からの意見交換が活発に行われ、広い視野を育て、新たな興味関心を育むことができるのが魅力です。また、卒論では自分の専攻地域や関心に沿った柔軟なテーマ設定が可能です。記憶論や歴史学、政治学、国際関係学に興味がある人はもちろんのこと、様々な人と関わりながら自分の視野を広げたい人や自分の興味関心を追求したい人にもおすすめです！（廣田希）

国際関係コース 篠田英朗ゼミ

私たち篠田ゼミでは、紛争分析・平和構築について扱っています。馴染みのないワードかもしれませんが、ケーキの取り合いから武力紛争まで、「対立」をどう解決できるのかという問いを柔軟に考えられる学問です。篠田ゼミでは、紛争分析の手段を実際の社会課題に応用したり、国連のプロジェクトを分析したりと、実践的でユニークな学びを得ることができます。グループで和気藹々と行うものも多く、個性豊かな同期と出会えるのも魅力の一つです。卒業研究テーマは限定されておらず、昨年も紛争鉱物や開発援助、ジェンダーから外国人政策まで、それぞれの興味に応じて様々でした。国連機関や省庁を志す方にもおすすめのゼミで、先生がゼミ内で貴重な豆知識を共有していただきます。同期や先輩との繋がりも強く、就活体験談共有会や懇親会も開催されています。篠田ゼミ一同、後輩のみなさんをお待ちしています！（米本さくら）

国際関係コース 谷一巳ゼミ

谷ゼミは2025年度から開講した新しいゼミです。国際政治や外交関係の歴史に視座を置き、週に一冊の先行文献の通読と、ゼミでは文献報告と報告者が設定する問いへの議論を通して理解を深めていきます。扱われるテーマは18世紀以降のヨーロッパや日本が中心です。25年度は課外活動として、6月に防衛大学校との合同授業と海上自衛隊への訪問があり、他校や実務者の方々から刺激を得る機会となりました。外交史は国と国との関係に大きく拠るものですし、ゼミでも歴史的出来事や二国間／多国間関係を取り上げることが多いですが、ともすればあるひとりの政治家によって大きく変化がもたらされることもあり、そうした人物に注目する授業回もあります。単なるシステムではなく人によって作り出される国際政治の歴史を、人との議論が中心の谷ゼミで仲間とともに開いてみませんか？（齋藤瑞喜）

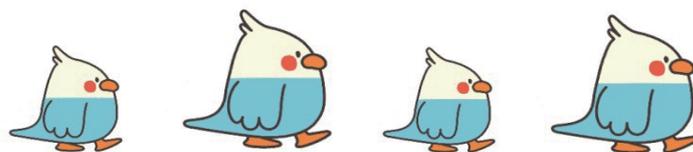
国際関係コース 松永泰行ゼミ

本ゼミは比較政治学を扱いますが、ここでいう「比較」とは、世界各国の政治を観察し、社会科学の理論を用いて現実の問題を検討することを指します。そのため、「A国とB国の政治制度を比べる」という比較に限られるわけではありません。ゼミでは、学生の関心をもとに読む文献を決めます。近年取り扱ったテーマには、歴史制度主義、ポピュリズム、国境などがあります。古典から最新のものまで幅広い社会科学の理論に触れることは、混沌とした世界の事象を自分なりに整理し、解釈するための思考の筋道を身につけることにつながると感じています。松永先生の専門であるイランや中東地域に関心がある学生はもちろん、他の地域に関心を持つ学生も、社会科学の視点から政治の問題を考えたいという意欲があれば、学びを深めることができるゼミです。（伊藤涼乃）

***サブゼミとは？** 本学では、指導教員とは別の教員が担当するゼミを履修することも可能です。このことを、通称「サブゼミ」と呼んでいます。皆さんの先輩の実体験から、サブゼミの利用法を見てみましょう（なお、全てのゼミがサブゼミを開講しているわけではありません。サブゼミを履修する際には、必ずその担当教員と事前に相談しましょう）。

私は本ゼミとして山内由理子先生のおセアニア地域研究演習に参加しながら、サブゼミとして大石高典先生のアフリカ地域研究演習に参加しました。文献研究がメインの本ゼミとフィールドワークを重視するサブゼミに参加したことにより包括的な学びに繋がりました。サブゼミでは、国内外でフィールドワークを行ってきた学生の発表を通して、インタビューの手法や現地の人々との信頼関係の築き方などを学びました。こうしたサブゼミの環境に強く影響され、臆病で海外経験に乏しい私も国外のフィールドに足を踏み入れることができました。同時に本ゼミでの文献研究のおかげで、いざ現地に行った際に「これ、あの本で読んだぞ！」という、知識と実体験が重なる瞬間が多くあり、自らの研究対象への理解を深められました。最初は不安に思うかもしれませんが、本ゼミとは一味違う）ゼミに参加してみると、刺激的で有意義な時間になるのではないのでしょうか？（山本万智）

登利谷ゼミの最大の利点は何とんでもその自由度の高さとそれに付随しての周囲の研究テーマのバリエーションの豊富さです。登利谷先生はアフガニスタン・パキスタンを専門としておられますが、イランをはじめ西アジア地域からインド・バングラデシュなどの南アジアにも精通しておられます。その為、ゼミ生はパキスタン・アフガニスタンに縛られることなく非常に幅広いテーマを研究しています。ゼミ生はウルドゥー語科をはじめペルシア語科、ベンガル語科、ヒンディー語科など多岐にわたり、バングラデシュからイランにわたる広い範囲の知見を深めることができます。授業では、各自で自分の興味関心をもとに持ち寄った文献を読んだうえでディスカッションを行います。また早くから卒論に向けた構想やロードマップを考えるため、日々調べる文献も含めて卒論のことをじっくりと考えられます。一緒に登利谷ゼミで学びましょう！（S.S.）



Welcome Messages

菊池陽子 先生 地域社会研究コース



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。皆さんは入学とともに13に分けられた地域の一つに所属し、その地域の専攻語を学ぶことになります。第一希望の専攻語所属になった方もいれば、そうではなかった方もいるでしょうが、第一希望ではなかった方も心配しないでください。地域や専攻語との出会いは、多くの場合、偶然から生じた縁です。本学の国際社会学部という場では、皆さん自身がその縁をつなげ広げることができます。つなげ方、広げ方は自由なのが本学部の良いところです。地域の沼にはまりたい人も、現代世界の諸課題をとことん考えたい人も、特定の学問領域から地域の諸課題を俯瞰したい人も、まずは所属地域と専攻語からその一歩を踏み出してみてください。本学では諸地域の留学生が学んでいますので、学修した専攻語でその地域の人々と話をする機会も得られるはずで、卒業する頃には偶然であった出会いが必然に変わっていったというような、地域とそこに住む人々との楽しくもあり、ちょっぴり苦しい時もあり、けれど幸せな出会いをして下さることを期待しています。教員は皆さんの学修を全力でサポートします。

梁英聖 先生 現代世界論コース

ようこそ大学へ。ところで期待よりも不安が勝る方も多いのでは。入学早々就職やあるいは差別やハラスメントのことが気になって勉学に集中できない新生がおられても全く不思議ではありません。「おめでとう」に代えて、そんな新生が大学でサバイブする上で役立つ(かもしれない)言葉をお贈りします。①「(早期)就活は要注意」。大学生には国家や市場の圧力に屈することなく学ぶ権利があります。就活は欧米にない日本型雇用の(悪しき)慣行に過ぎません。世間知らずの学生に「就職できない恐怖」を煽ることでカネを儲ける悪徳ビジネスに騙されないためにも、まずは大学で真剣に勉強することで企業や国家による人権侵害に対抗して生き延びる知恵を身に着けましょう。就活を可能な限り先延ばしして上手にサバイブしている先輩もいるはずなので、先輩・教員に色々聞いてみましょう。②「セクシュアル・ハラスメントやレイシャル・ハラスメントなど差別や虐待があった場合、悪いのは被害者ではなく、加害者と加害を止めない周りである」。もし虐待が横行して誰も止めないのなら、そんな共同体や組織からは逃げる権利もあります。学生相談室も気軽に利用しましょう。③「책은 말없는 스승이다」(書は物言わぬ師なり)。もし大学や教員に「失望」したなら、図書館に逃げて、スマホとネットを切って、好きな読書に没頭すること。探せば心から面白いと思える本(=師)に出会えます。ところで本を深く正確に読むには訓練が必要ですが、そのお手本を示せる者も大学のどこかにはいるはずで、本であろうと人間であろうと、良き師や仲間に出会えますよう。

佐藤千鶴子先生 国際関係コース

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活という人生の新たな段階に一歩踏み出したみなさんの目の前には、可能性という大きなキャンパスが広がっています。入学したばかりの今は、期待に胸を膨らませている方も、不安に押しつぶされそうな方もいるでしょう。私自身、本学で働き始めたのは、わずか1年前のことです。前職とは大きく異なる環境で戸惑いも多くありました。そんなとき、大学の仕組みについて教えてくれる同僚にとっても助けられました。ゼミ生や授業の受講生との対話や議論から学ぶことも多いです。大学教員というと、やや身構えてしまうかもしれませんが、ぜひたくさん話をして、そこからいろんなヒントを得てください。焦らず、周りに流されず、自分が情熱をもって取り組めることを見つけられたら、大学生活がとっても楽しいものとなると思います。



5. 学部賞受賞者紹介

国際社会学部では、指導教員から推薦があったすぐれた卒業論文に対して国際社会学部賞が授与されます。2025年度の受賞者と論文タイトルを紹介します。本学の学生は、受賞論文および紹介動画（本人の承諾があったもののみ）をMoodle上で閲覧できます。また、過去の先輩たちの卒業論文タイトルは学部ホームページで見ることができます。

■地域社会研究コース

江川莉奈（坂井ゼミ）廃絶は誰のためか：女性器切除をめぐる語りの主体とその死角

宋禹瞳（大石ゼミ）日本における移民家族の同化を超える日常的調整：中国ルーツの一世と二世のライフ
ヒストリーからみる「折り合い」の積み重ね

川出航也（登利谷ゼミ）マフムド・アリのパキスタン理念：パキスタン・ナショナリズムと東ベンガル進
歩主義との狭間で

福澤ここの（篠原ゼミ）ハプスブルク帝国領ガリツィアにおけるネイション意識形成：皇帝巡幸にみるポー
ランド系・ウクライナ系住民

北中遥（菊池ゼミ）「特別な関係」として語られるラオス・ベトナム関係：2015年以降の建国記念祝電を
中心とした言説分析

鈴木夕佳（藤井ゼミ）実践による人権創造：韓国のクィア運動の事例から

佐藤慧知（鈴木ゼミ）沿ドニエストルにおける、パトロン国家からの一定の自律：沿ドニエストル政局の
安定とロシアの介入意欲低下がもたらしたもの

李儒理阿（青山ゼミ）イランの政治運動における農民の役割：アゼルバイジャン民主党との関係を中心に

■現代世界論コース

佐藤春菜（大川ゼミ）国境を越える移動の自由の権利を否定することは可能か：デイヴィッド・ミラーの
人権論と権利を尊重する義務の批判的分析

松本直尋（小野寺ゼミ）抵抗にみるナチ体制下におけるドイツ国民の行動可能性：1943年のローゼンシ
ュトラーセ抗議を事例に

樽林輝奈乃（真島ゼミ）沈黙をほどく：反同性愛法下を生きるナイジェリア女性の語り

■国際関係コース

浜住夏帆（田島ゼミ）日本における男女間賃金格差の構造的要因と是正政策の有効性

土屋京香（岡田ゼミ）Changes in Intercultural Competence of Asian Students: A Mixed-Methods
Research of an Online International Exchange Program

米本さくら（篠田ゼミ）The Politics of Measuring Peace for Women: Conceptual and Data Biases in the
WPS Index



6. 大学生のためのレポート作成ガイド

1. レポートとは何か

大学のレポートとは、単なる感想文ではなく、問いを立て、資料に基づいて論理的に考察する文章です。課題文をよく読み、「何が求められているのか」を最初に確認することが重要です。

2. テーマと問いの設定

- レポート作成は「問い」から始まる。
- 大きな関心から、小さな具体的問いへと絞っていく。
 - 最初は仮の問いでOK、文献を読む中で問いを洗練させる。

⇒問いとタイトルは、執筆の進行に合わせて修正していく
⇒「自分が面白いと思ったことを出発点にする」ことが重要

3. 資料収集と読み方

(1) 資料の探し方（主な情報源）

- 図書（教科書、参考文献、OPAC など）
- 学術論文（CiNii、Google Scholar）
- 新聞記事・公文書など

⇒学術書は信頼性（検証可能性）が高く、できるだけ活用すべき

(2) 資料の整理方法

1. 書誌情報（著者・書名・年など）
2. 要約（主張・結論）
3. 読んだものについての自身のコメント

⇒これにより、剽窃を防ぎ、後の執筆が楽になる

4. 構成づくり（アウトライン）

1. 序論（問題提起・目的）
2. 本論（分析・議論）←本論を中心に構成する
3. 結論（まとめ）

⇒1つの段落に1つの主張を書く「パラグラフ・ライティング」が重要

5. 執筆のポイント

- (1) はじめに（序論）：テーマ、問い、論文の構成、自らの立場について書く
- (2) 本論：資料の紹介、分析、自らの考察について書く
- (3) おわりに（結論）：問いへの答え・本論のまとめ・今後の課題

⇒単なる要約に終わると「剽窃に近い」と判断されやすいため、必ず自分の視点を加える

6. 引用と参考文献

(1) 引用の基本

- 他人の文章・考えは必ず出典を示す
- 直接引用・間接引用（他者の文献の内容を自分の言葉で要約し言い換えて引用する方法）を使い分ける
- 分野ごとの書式を確認する

⇒きちんと引用すれば剽窃していないことの証明になる

(2) 参考文献表

- 書式を統一する
- 著者名順に並べる（アルファベット順または50音順）

7. 生成AIの活用について AIの使用可否やルールは授業ごとに異なるので教員の指示に従う

8. 提出前チェックリスト 構成と字数、論理の流れ、誤字脱字、引用・文献表、書式設定

まとめ よいレポートを書くための基本は①問いを明確にする、②信頼できる資料を読む、③構成を先に作る、④自らの視点で論じる⑤引用と形式を守る。

⇒授業や分野ごとに 出典・引用・参考文献表記のルールは異なるので、教員の指示があればそれに従う

■出典・直接引用・参考文献表記の事例

身売りや奉公、売買春など、人身売買にあたる事象は歴史上数多くあり（下重 2012）、「歴史的に広く労働現場でおこなわれてきた現象」（藤野 2012：12）といわれる。そうした売買の対象となってきたのは、多くの場合が女性や年少者であって、現代においては組織的かつ国境を越えた問題も少なくない。一方でそれらのなかには往々にして「人身売買」とは認識されずに慣習化、正当化されている場合も多い。

参照した文献の著者のラストネームと刊行年、頁番号を記す。
(下重 2012)
(藤野 2012:12)

1948年の末である12月30日に「人身売買の調査をGHQ、政府へ命令」という記事が掲載されるが、これはそれに先だって 12月3日に毎日新聞に掲載された栃木県の農家における子どもの取引に関する記事が発端になって注目された事件と関連をしている。その毎日新聞記事の抜粋は以下の通りである。

レポート・論文の文体は、常体（である調）にする

「子供を売歩く男一誘拐常習人捕る」

(略) 去る九月 -君をゆうかいして栃木県河内郡平石村上平出に連れて行き、同月十一日 -君を同村の -方に売込み、つづいて附近二軒の農家に十三歳前後の男の子三人を売込み、自分も同月 # 日五日から同村農家に住込んで野良仕事の手伝いをしていた。ところが去月サ - 日村の農地祭に主人の洋服を着込んで行方をくらまし、その足で同村下柳に子供を世話すると (略) 東京都内でゆうかいした少年乞食しながら連れ歩き農家に売込んでいたもの (1948年12月3日「毎日新聞」、掲載された個人名は - とした)

直接引用の場合は通常の段落よりも2,3字多く字下げするかカギ括弧に入れる

この記事の掲載後、これを子どもの人身売買に関する事案であると判断したGHQは、公衆衛生福祉局 (PHW) が中心となって、日本側に調査や対策を要求していく (藤野 2012)。

参考文献は50音順かアルファベット順で表記。
著者名・刊行年・署名/論文名・出版社名等を明記

参考文献

小野沢あかね 2010, 『近代日本社会と公娼制度』
加藤美帆 2012, 『不登校のポリティクス』 勁草書房
下重清 2012, 『〈身売り〉の日本史——人身売買から年季奉公まで』 吉川弘文館
藤野豊 2012, 『戦後日本の人身売買』 大月書店
労働基準局1949, 「いわゆる『人身売買』事件の取締まりについて」 『労働時報』 第2巻4号, pp.20-21.

〔以上、加藤美帆 2016, 「戦後『人身売買』の問題化過程の検討—1945～1959年の新聞記事の分析から—」 『東京外国語大学論集』 第93号, p.38, 43, 47より抜粋して転載〕

■その他：たふさぼ (p.25～) や学習相談デスクを活用

附属図書館2F〈多言語コンシェルジュ・学習相談デスク〉について

学習相談デスクでは、本学の大学院生が「多言語コンシェルジュ」として、さまざまな言語・分野にわたって相談に対応しています。また、レポートの書き方や多読方法などのガイダンスを行ったり、ワードや文献管理のソフトについて簡単にまとめた配布物を作成しています。



詳細は HP で確認

<https://www.tufs.ac.jp/blog/is/g/sodan/>

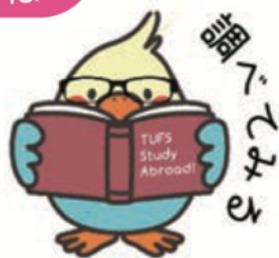
7. 学びのサポート案内

留学してみたいけど、どうしたらいいだろう……。就職のことも考えておいたほうがいいかな……。もっと英語を磨きたいな……。あるいは、ちょっと困ったな……。誰かに相談したいな……。そんな時に、大学には学生生活をサポートするさまざまな窓口があります。

いつでも、遠慮なく相談してください。

- A. TUFs アカデミック・サポート・センター（たふさぼ ☞ 日々の勉強に悩んだらまずココ）
- B. 保健管理センター（本部管理棟隣 ☞ 不調を感じた時、ケガをした時に）
- C. 学生相談室 ☞ ところの悩みがある時に
- D. グローバル・キャリア・センター（研究講義棟2階 ☞ 就活を全面バックアップ）
- E. 学習相談デスク（図書館4F ☞ 大学院生から、学習上のアドバイスがもらえます）
- F. 留学支援共同利用センター（留学生日本語教育センター棟1階 ☞ 留学（ショートビジット、協定校、私費…）に関する情報収集、相談はこちら）
- G. 英語学習支援センター（ELC）（研究講義棟3階304室 ☞ 英語学習をサポート）
- H. 学生課、教務課（本部管理棟1F ☞ 学生生活や履修・成績関連一般はこちら）
- I. 個別の教員 ☞ 専攻言語や地域基礎など、よく会う教員に話してみようかな、というのもあり

困ったときは
「相談窓口ガイド」
もよく読んでね



～みなさんの大学時代の学びを支える場となることを願って～

ご入学おめでとうございます。大学生活が始まると、「いろいろ勉強してみたい！でも何から始めたらいいのだろう？」「レポートを書くって、どうすればいいの？」「授業になんとかついていけない」「入学前に思い描いていた大学生活と全然違う…」など、戸惑い、不安、悩みをもつこともでてくるかと思います。

そんなとき、ぜひ、たふさぼを利用して下さい。

1. 教員・大学院生からなるスタッフがみなさんの学修をサポートします

TUFS Academic Support Center (たふさぼ) では、履修やゼミ選択、レポート作成、卒論、転ゼミ、転学部、転学（他大学再受験）、大学院進学などに関する相談を受けています。どうやって自分の興味関心を広げたらよいか悩んだとき、たふさぼを活用して下さい。ディプロマ・サブリメントに関する各種届け出も、たふさぼが窓口になります。

1-1. TUFS Record(たふれこ)

学内外の多様な学修活動を記録するシステム「TUFS Record」(たふれこ) は、自分自身を振り返って客観的に見つめ直すことがしやすくなり、課題が明確になるツールです。「TUFS Record」に登録された情報は、卒業時にみなさんにお渡しする「ディプロマ・サブリメント」(公的な証書) の重要な情報源となります。

たふれこって何だろうと関心を持ってくださった方は、ぜひ、「TUFS Moodle 2」にアクセスして下さい(※MOEではありません)。マイコースから、「TUFS Record (〇〇年度入学者)」のコースに入っていると、たふれこが始まります。使い方動画もアップしていますので、ぜひ視聴下さい。

自分で登録・編集できない情報は、登録申請フォーム(Google フォーム)から届け出て下さい。毎年、みなさんが自主的に受験した言語力の外部試験結果(英語と英語以外の言語)について、多数の届け出があります。

外部試験結果申請例：TOEIC、IELTS、TOEFL、ドイツ語(ゲーテ・ドイツ語検定試験)やフランス語(実用フランス語技能検定試験)、イタリア語(実用イタリア語検定試験)、スペイン語(スペイン語認定証)、中国語(HSK)など。

1-2. ミニ相談・学修相談

- たふさぼ窓口では、履修の組み方やレポートの書き方、課題や試験のスケジュール管理などに関する相談を「ミニ相談」として、教員や大学院生などからなるスタッフが対応します。事前予約不要です。お気軽にお越し下さい。
- ゼミ選択、転学部、転ゼミ、転学、卒論の書き方、大学院進学など、時間をかけて相談したいことがある場合には、「学修相談」を予約して下さい。学修相談員である金井先生・丹羽先生とじっくり、オンライン(zoom)でお話できます。
- 最新の予約方法などは、たふさぼ HP をご確認ください。

- 2025 年度国社の学生さんからの相談例：履修の計画、ゼミ選択、転ゼミ、留学と進路、卒論の進め方、休学期間の過ごし方、復学に向けて、進級・卒業要件の確認、転学部、転学／編入、大学院進学（海外含む）、奨学金申請書類の添削など。

1-3. たふさぼ・おしゃべり会（オンライン／対面開催）

- 学生のみなさん同士がつながり・気軽に話せる機会を作り出たく、たふさぼ・おしゃべり会を開催しています。
- 毎回 10 名程度の方が参加をしてくれ、その時々トピックについて、たふさぼスタッフを交えておしゃべりをしています。
- 学部やゼミ、学年をこえたゆるやかなつながりの中で、アイデアやひらめき、共感がうまれています。
- 2026 年度も春学期より、おしゃべり会を企画しています。よかったらぜひご参加下さい。企画のアイデアも絶賛募集中です！

2025 年度開催おしゃべり会一覧



2. たふさぼスタッフからみなさんへのメッセージ

たふさぼ学修相談員

学修相談員の金井光太郎です。退職前は国際社会学部英語専攻北米地域でアメリカ史を教えていました。真面目な外大生のみなさんは一人で悩んでいると高い水準を設定して自分には無理だと思ってしまうようです。自分がやりたいと思い真剣になれば壁は意外に低いものです。相談してみてもいいかなと思います。

か。人に話すとき自分をよく見つめることになります。そこでの気づきもあります。人の話も受け入れられるようになります。メリットがたくさんあるでしょう。思いとそれを活かす方向がずれていることもあります。人に話を聞いてもらって、客観的にふさわしい方向を教えてもらえるといいでしょう。不安、心配事は何かをしたい、しようとする積極性なのです。それを空回りさせずに自分を活かすように努力することが重要です。行動するのは自分。でも、たふさぼが見守っている、応援している。壁だと思えば、話し、聞くことで乗り越える勇気になります。

こんにちは。学修相談員の丹羽京子です。2023年の3月まで教員を務めていました。私は、大学生活は良い意味での「モラトリアム」期間であると考えています。モラトリアムというと、ネガティブな意味で使われることが多いのですが、本来は「猶予期間」を指します。つまり、これは完全な「大人」になるための最後の猶予期間であり、これから自分が何をしたいのか、どう生きたいのか、自分とはなんなのかをゆっくり考えることができる貴重な時期であるということです。もちろんそのためにはただ座って考えていてもしかたありません。授業やゼミでの学びもあるでしょうし、サークルやボランティアなど様々な活動での気づきもあるでしょう。それを大事にしてもらいたいからこそ、この貴重な時間をすり減らしてしまうことがないように、何か問題があったらすぐに相談してもらいたいと思います。ただおしゃべりするだけで、自分が何を求めているのか、何にひっかかりを感じているのかがわかることもあります。気負わず気軽に面談を申し込んで下さい。

たふさぼスタッフ（国際社会学部卒・博士後期課程）

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新しい生活への期待や不安で胸がいっぱいかもかもしれません。大学生活は、勉強だけでなく、新しい挑戦や発見の中で自分自身と向き合う時間でもあります。悩んだり迷ったりすることがあれば、一人で抱え込もうとせず、周囲の助けを借りて下さい。たふさぼでは、履修や進路の相談はもちろん、どんな小さなこともみなさんと一緒に考えます。

たふさぼ・センター長

たふさぼ・センター長の布川あゆみです。ご入学おめでとうございます。

例年春学期は、1年生から「履修の組み方がよく分からない」「ゴールデンウィーク明けから授業を欠席してしまっている」「レポートで問いが立てられない、引用の仕方もよくわからない」「課題が多すぎて、埋もれている。スケジュールが管理できない」などの相談を多く受けています。「できない自分が悪い」という声もよく聞きますが、学びに真摯に向き合おうとしているからこそ出てくる悩みだとたふさぼでは捉えています。

これまで先輩たちがあゆんださまざまな「道」を参考に、みなさんそれぞれの「道」を一緒に、じっくり考える場として、たふさぼが位置づくようにと願っています。ぜひぶらりとたふさぼに寄って下さい。ヘッドセットやPC充電器（Type-C）、PCの一時貸し出しもしています。壊れた！忘れた！といった時にも、どうぞたふさぼへ。

スタッフ一同みなさんとお会いできることを楽しみにしています。

3. たふさぼへのアクセス

場所：研究講義棟 1 階北側エントランス横

開室時間（祝日閉室）：月曜～金曜 10：00～15：00（8月は閉室。）

たふさぼ室内の様子



たふさぼ前ホワイトボード：タイムリーなお知らせをアナウンスしています。お見逃しなく！

お問い合わせ先

TUFS Academic Support Center（たふさぼ）

住所：〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

電話：042-330-5885

メールアドレス：academic-support-center@tufts.ac.jp

たふさぼ HP:

<http://www.tufts.ac.jp/institutions/facility/tufssupport/>



8. 国際社会学部 教員一覧

国際社会学部で専修プログラムの授業を担当している専任教員の一覧です（この一覧にはゼミ・卒論演習を担当していない教員も含まれています→*で表示）。

地域社会研究コース			
教員名	専門分野	研究室	e-mail
青木 雅浩	モンゴル地域研究、中央アジア・東北アジア近現代史	826	masamon@tufs.ac.jp
青山 弘之	現代中東（西アジア・北アフリカ）の政治・思想・歴史	837	aljabal@tufs.ac.jp
足立 享祐	インド地域研究、歴史学（近現代史）、ヒンディー語	802	adachi.kyosuke@tufs.ac.jp
生駒 美樹	文化人類学、ミャンマー・東南アジア地域研究	660	ikoma_miki@tufs.ac.jp
伊東 剛史	イギリス近代史、人と動物の関係史、感情史	626	t.ito@tufs.ac.jp
大石 高典	生態人類学、アフリカ研究、狩猟採集民、森林と人間	506A	takanori@tufs.ac.jp
小田 なら	ベトナム地域研究、ベトナム現代史	514	naraoda@tufs.ac.jp
小田原 琳	イタリア近現代史、ジェンダー史	760	rodawara@tufs.ac.jp
川本 智史	中東地域研究（トルコ）、都市史・建築史	831	skawamoto@tufs.ac.jp
菊池 陽子	東南アジア近現代史、ラオス近現代史	639	kikuchiyoko@tufs.ac.jp
金 悠進	インドネシア・東南アジア地域研究、ポピュラー音楽	633	kim.yujin@tufs.ac.jp
木村 暁	中央アジア史、中央アジア地域研究	834	s_kimura@tufs.ac.jp
日下 渉	フィリピン地域研究、政治と文化、エスノグラフィー	637	kusaka@tufs.ac.jp
久米 順子	スペイン中世美術史、西洋美術史、文化史	726	kumejun@tufs.ac.jp
倉田 明子	中国・香港近現代史（社会史、キリスト教史）	853	akurata@tufs.ac.jp
近田 亮平	ブラジル研究、ラテンアメリカ地域研究、社会問題	761	r.konta@tufs.ac.jp
坂井 真紀子	農村社会学、アフリカ地域研究、村落開発	720	sakai_makiko@tufs.ac.jp
佐藤 清子	アメリカ合衆国の宗教史	662	sesato@tufs.ac.jp
澤田 ゆかり	中国（含む香港）に関する社会保障と労働問題	852	sawada@tufs.ac.jp
篠原 琢	中央ヨーロッパ近・現代史（18-20 世紀）	718	takus@tufs.ac.jp
鈴木 義一	現代ロシア地域研究、ソ連史、比較経済体制論	704	ysuzuki@tufs.ac.jp
芹生 尚子	近世フランス史、史学史	761	nseriu@tufs.ac.jp
左右田 直規	東南アジア近現代史、マレーシア政治社会史	601	soda@tufs.ac.jp
巽 由樹子	ロシア史、メディア研究	703	tatsumi@tufs.ac.jp
千葉 敏之	ヨーロッパ中世史、キリスト教史、歴史資料体学	649	t-chiba@tufs.ac.jp
登利谷 正人	アフガニスタン・パキスタン地域研究・近現代史	851	toriya@tufs.ac.jp
萩尾 生	バスク地域研究、言語社会学	728	shohagio@tufs.ac.jp
福嶋 千穂	近世ポーランド=リトアニア史、前近代のウクライナおよびベラルーシ	717	fsch@tufs.ac.jp
藤井 豪	朝鮮近現代史、韓国現代社会	857	nareh0810@tufs.ac.jp
宮田 敏之	東南アジア経済研究、タイ地域研究、タイ経済研究	531	tmiyata@tufs.ac.jp
山内 由理子	文化人類学、先住民研究、オセアニア地域研究	625	yuriko.yamanouchi@tufs.ac.jp
ルシオ デ ソウザ	近代ヨーロッパ - アジア関係	617	sousa.lucio@tufs.ac.jp

現代世界論コース			
教員名	専門分野	研究室	e-mail
上原 こずえ	社会学、沖縄現代史、社会運動史	551	uehara@tufs.ac.jp
大川 正彦	政治学（原論・政治理論）、倫理学、いのち論	546	okawa@tufs.ac.jp
小野寺 拓也	ドイツ現代史、ナチズム論、日常史、感情史、男性史	647	tonodera@tufs.ac.jp
加藤 美帆	教育社会学、家族社会学、ジェンダーと教育	528	mihokato@tufs.ac.jp
竹田 恵子	ジェンダー／セクシュアリティ研究、メディア研究、社会学	518	keiko_takeda@tufs.ac.jp
田邊 佳美	国際社会学、社会運動論、国際移動とジェンダー、交差性	723	yoshimi.tanabe.i@tufs.ac.jp
東城 文柄	バングラデシュ地域研究、地理学、RS・GIS、環境地理学	506C	tojo.b21@tufs.ac.jp
中山 智香子	社会思想、経済思想、グローバルスタディーズ	504	nakac@tufs.ac.jp
平田 周	フランス語圏現代思想、グローバルスタディーズ	531	shushu68@tufs.ac.jp
古川 高子*	近現代ヨーロッパ史、アルピニズム、自然の思想史	559	furukawa@tufs.ac.jp
真島 一郎	社会人類学、現代思想、西アフリカ民族誌	503	imajima@tufs.ac.jp
梁 英聖	レイシズム研究、資本主義と差別、在日朝鮮人差別	516	yongsong@tufs.ac.jp

国際関係コース			
教員名	専門分野	研究室	e-mail
内山 直子	ラテンアメリカ地域研究、開発経済学	731	n.uchiyama@tufs.ac.jp
岡田 昭人	比較国際教育学、異文化コミュニケーション	532	aokada@tufs.ac.jp
片岡 真輝	記憶の政治学、フィジー地域研究	631	masaki_kataoka@tufs.ac.jp
菊地 和也	応用経済学、ゲーム理論	554	kkikuchi@tufs.ac.jp
佐藤千鶴子	国際協力論、移民・難民研究、アフリカ地域研究	529	satochi@tufs.ac.jp
篠田 英朗	平和構築、紛争解決、国際秩序論、国際協力、国際組織	505	hshinoda@tufs.ac.jp
鈴木 美弥子	民法、消費者法、環境法	555	mysuzuki@tufs.ac.jp
武内 進一	アフリカ研究、国際関係論、国際協力論	401E2; AA 研棟 611	shinichi_takeuchi@tufs.ac.jp
田島 陽一	国際経済学、開発経済学、メキシコ経済論	556	tajima@tufs.ac.jp
谷 一巳	国際関係史（現代も含む）、イギリス外交史	552	k.tani@tufs.ac.jp
出町 一恵	国際金融論、開発経済論	830C	k.demachi@tufs.ac.jp
富田 晃正	国際関係論、国際政治経済学	652	terumasa@tufs.ac.jp
中谷 純江	平和維持、テクノロジーと安全保障・緊急支援、危機管理	557	sumie.nakaya@tufs.ac.jp
松隈 潤	国際法、国際機構論	550	jmatsukuma@tufs.ac.jp
松永 泰行	比較政治学、政治社会学（争議政治）、国際関係論	524	matsunaga@tufs.ac.jp
吉崎 知典	国際政治、安全保障、国連平和維持活動（PKO）	501	tomoyoshizaki@tufs.ac.jp
若松 邦弘	比較政治（西欧）、福祉・移民・環境など社会争点政治	661	kwakamat@tufs.ac.jp



9. よくある質問コーナー

Q1. 入学前に ICC アカウントとパスワードが配布されたそうですが、受け取っていません。どうすればよいですか？

A1. ICC アカウント取得に関するお知らせは、入学手続の際に住所等と一緒にウェブページに入力されたメールアドレス宛に送られています。もう一度確認してみてください。メールを受け取っていない/紛失した場合は、東京外国語大学総合情報コラボレーションセンター（ICC センター）に連絡してください。 E-mail: icc-service@tufs.ac.jp

Q2. 春学期の GLIP 科目の履修や登録方法について質問があります。どこに連絡すればいいですか？

A2. GLIP デスクに問い合わせてください。

GLIP デスク（研究講義棟 412 教室） E-mail: glip@tufs.ac.jp Tel: 042-330-5366

Q3. 春学期は何コマくらい履修すればいいですか？

A3. **12-15 コマ**をおススメします。必修科目、進級要件科目を中心にまず時間割を組み、そこに教養科目を足していく、というイメージが良いと思います。

Q4. 授業をどうしても欠席しないといけません。どんな手続きが必要ですか？

A4. 欠席には公欠になるものとならないものがあります。履修案内をよく読み、必要な手続きをしてください。

Q5. 履修している科目の担当の先生に連絡したいことがあります。メールアドレスが分からないのですが、どうすればいいですか？

A5. 大学ホームページの「研究者一覧」には外大所属の教員が全員載っています。ここに目指す先生がいるか、その先生のページにメールアドレスが書いてあるか、確認しましょう。

<http://www.tufs.ac.jp/research/researcher/people/index.html>

Q6. 確認しましたが、そこには先生の名前（メールアドレス）がありませんでした。どうしたらいいですか？

A6. 非常勤の先生については、個人情報の観点から情報は公開されていません。授業時間中に連絡を取ることを優先してください。緊急の場合は教務課に相談してください。また、下記の科目群については、それぞれ担当の専任教員にも相談してみてください。

- ・ 専攻言語・地域基礎の場合→専攻言語代表教員
- ・ 地域代表教員 教養外国語の場合→教養外国語担当教員
- ・ GLIP 科目の場合→ GLIP デスク

2026 年度 国際社会学部 学部運営体制

学部長	千葉 敏之
副学部長	加藤 美帆
地域社会研究コース コース長	篠原 琢
現代世界論コース コース長	大川 正彦
国際関係コース コース長	田島 陽一
学部長補佐（入試担当）	倉田 明子
学部長補佐（教務担当）	上原 こずえ
学部長補佐（学生担当）	木村 暁
学部長補佐（広報・点検評価担当）	伊東 剛史

地域代表教員

北西ヨーロッパ	伊東 剛史
中央ヨーロッパ	篠原 琢
西南ヨーロッパ	小田原 琳
イベリア	久米 順子
ロシア	鈴木 義一
中央アジア	木村 暁
東アジア	澤田 ゆかり
北アメリカ	佐藤 清子
ラテンアメリカ	内山 直子
アフリカ	大石 高典
オセアニア	片岡 真輝
東南アジア	左右田 直規
南アジア	足立 享祐
中東	青山 弘之

※作成にあたって TUFSS Academic Support Center たふさぼ、留学生課、
附属図書館学習相談デスクのご協力をいただきました。

東京外国語大学 国際社会学部の歩き方

2026 年度入学生版

2026 年 3 月発行

東京外国語大学 国際社会学部

表紙デザイン：溝田 操花（南アジア地域ウルトゥー語専攻 2026 年卒業）
